茨木市文化財資料集　第61集

太田遺跡発掘調査概報

平成27年（2015年）3月

茨木市教育委員会

口絵１　太田茶臼山古墳（継体天皇陵）

口絵２　太田遺跡出土埴輪

口絵３　太田遺跡　古墳群築造想定図（左：安威川・正面：太田茶臼山古墳）

序　　文

私たちの住むこの茨木は、大阪と京都の間の交通の要衝に位置するとともに、北半部は丹波高原の老の坂山地の麓で、南半部には大阪平野の一部をなす三島平野がひろがり、温暖な気候と豊かな自然に恵まれた過ごしやすい環境のもと、はるか昔から多くの人びとが生活を営んできました。その先人たちの足跡は、埋蔵文化財として私たちが生活する地面の下に、土に埋もれた文化財として現代に残されてきました。

このような先人たちの生活や文化は、私たちの生活の基となるものであり、また、土の中に残された遺構や遺物は、先人たちが積み重ねてきた歴史をひも解く手がかりとなるかけがえのない財産です。

しかし、本市は、近年の大規模な開発により宅地化が進み、土地利用の形態が変化したことで、これまで残されてきた多くの埋蔵文化財を現状のまま残すことが困難になってまいりました。そのため、発掘調査によって埋蔵文化財を記録保存することにより、かつてこの地に刻まれた歴史や文化を貴重な歴史文化遺産として、次世代に残し伝えていくことが、今を生きる私たちの重要な使命であると考えます。

本書は、平成 20 年度に実施した土壌改良工事にともなう太田遺跡の発掘調査成果について、概要を報告するものです。これらひとつひとつの調査の積み重ねによる成果が、郷土茨木の歴史文化遺産として広く活用されることを願ってやみません。

終わりになりましたが、調査の実施にあたりまして、惜しみないご協力をいただきました土地所有者、施工関係者、近隣住民の皆さま方に深く感謝します。また、大阪府教育委員会ならびに関係諸機関には、格別のご指導とご配慮をいただき、今後とも本市の文化財保護行政の推進により一層のあたたかいご理解とお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

平成 27 年 3 月 31 日

茨木市教育委員会

教育長　八木　章治

例　　言

1．本書は平成２０年度に実施した茨木市太田東芝町に所在する工場跡地の土壌改良工事にともなう太田遺跡（OT08-1・2）の発掘調査概要の報告書である。

2．現地における発掘調査は、第１次確認(試掘)調査を平成20年６月23日、第２次確認(試掘)調査を７月31日に行い、平成20年10月２日～１１月６日まで第１次発掘調査、同年、９月19日・24日・26日に第３次確認（試掘）調査を行い、平成20年12月８日～平成21年３月28日まで第２次発掘調査を茨木市教育委員会が実施した。

3．発掘調査に関する協議・手続き等の業務は、地域教育振興課文化振興係（現　社会教育振興課文化財係）が行った。発掘調査は、第１次確認（試掘）調査を調査員　中東正之、第２次および第３次確認（試掘）調査および第１次・第２次発掘調査を調査員　黒須靖之が実施した。発掘調査は、施主　株式会社　東芝から株式会社　竹中工務店が受託し、安西工業株式会社が茨木市教育委員会の指示のもと実施した。

4．現地調査の測量および図面記録作成等は、調査補助員　高瀬隆治、西井貞善、辻本祐布子、菅原麻里、中川佳恵、初代絵理、臼井銀平、中澤克哉が行った。

5．内業整理・報告書作成業務は、高橋公子、堀澤照美、下口法子、西坂泰子、和田恵津子、高瀬隆治、西井貞善、辻本祐布子、菅原麻里、中川佳恵、中澤克哉が行った。

6．出土遺物の実測・トレースおよび原稿執筆は、調査員　関　梓が行ない、本書の執筆・編集は黒須靖之が行った。

7．出土遺物の掲載写真は、南部裕樹氏が撮影し提供を受けた。

8，現地調査および本書の執筆に際しては関係機関をはじめ、株式会社　東芝、　株式会社竹中工務店、安西工業株式会社から多大なご協力をいただいた。記して感謝の意を表する。

凡　　例

1. 本書で使用する標高は、T .P.(東京湾標準海水面)で表記する。各挿図に掲載する表記の内、M.N. は磁北を示し、表記のないものは国土座標系第Ⅵ系〔世界測地系〕に基づく座標北を示す。
2. 遺構名称は、遺構番号の前にＳＤ（溝）、ＳＦ（石敷）、ＳＩ（竪穴）、ＳＫ（土坑）、ＳＰ（柱穴・ピット）、ＳＸ（落込状遺構）の略称を使用している。なお、第２次本発掘調査では、調査区をＡ～Ｇ区の７調査区に分けて調査を実施したため、遺構略称の前に各Ａ～Ｇのアルファベットを付している。（例：ＡＳＤ-０１　→　Ａ区の溝１）
3. 土層断面図の作成位置は、「　Ａ－　－Ａ‘」で示している。
4. 挿図および本文中の土色・土器の色調の表記は、小山正忠、竹原秀雄　編著『新版　標準土色帖』に基づく。
5. 本書の遺物番号は、通し番号であり、本文・挿図・表における番号と一致する。ただし、実測番号および遺物に記載された注記番号とは異なる。
6. 遺物の掲載図は、１／３を基本とするが、一部の大型の遺物は縮尺を１／４に変更している。
7. 出土遺物および図版・写真等の記録は、茨木市立文化財資料館　〔〒 567-0861　大阪府茨木市東奈良三丁目 12 番 18 号　　ＴＥＬ　072-634-3433〕にて保管･管理している。広く活用されることを希望する。

本文目次

口絵１　太田茶臼山古墳（継体天皇陵）
口絵２　太田遺跡出土埴輪
口絵３　太田遺跡　古墳群築造想定図

序　　文
例　　言
凡　　例

第１章　地理・歴史的環境……1
　１．地理的環境……1
　２．歴史的環境……1

第２章　調査成果……5
　１．太田遺跡と周辺の遺跡……5
　２．太田遺跡の発掘調査……8
　　１）調査の経緯　……8
　　２）調査の概要　……9
　　３）基本層序　……23
　　４）第１次発掘調査（遺構と遺物）……23
　　５）第２次発掘調査（遺構と遺物）……23
　　６）まとめ　……26

挿図目次

図１　茨木市内遺跡分布図……3
図２　明治期の三島平野の地形と遺跡分布図……4
図３　太田周辺遺跡地図　……7
図４　太田遺跡発掘調査区位置図……10
図５　第１次調査区平・断面図……11
図６　第２次調査区平面図……13
図７　第２次調査区断面図……15
図８　第２次調査区遺構平面図（１～３号墳）……17
図９　第２次調査区遺構断面図１……19
図 10　第２次調査区遺構断面図２……21
図 11　第２次調査区遺構断面図３……22
図 12　出土遺物１……27
図 13　出土遺物２……28
図 14　出土遺物３……29
図 15　出土遺物４……30
図 16　出土遺物５……31
図 17　出土遺物６……32
図 18　出土遺物７……33
図 19　出土遺物８……34
図 20　出土遺物９……35
図 21　出土遺物 10　……36
図 22　出土遺物 11　……37
図 23　三島古墳群編年図……38

表　目　次

表１　出土遺物観察表１…… 39

写真図版目次

図版１　第１次調査区　石敷俯瞰（南から）…… 45
図版２　第１次調査区　全景（西から）／石敷断割状況（北西から）…… 46
図版３　第１次調査区　石敷全景（西から）／遺構検出作業（西から）…… 47
図版４　第１次調査区　石敷全景（北から）／石積状況（北から）…… 48
図版５　第１次調査区　調査区全景（西から）／石敷全景（西から）…… 49
図版６　第２次調査区　俯瞰（北から）／俯瞰（南から）…… 50
図版７　第２次調査区　Ａ・Ｂ区調査区全景（北西から）／Ａ・Ｂ区調査区全景（西から）… 51
図版８　第２次調査区　Ａ区全景（北東から）／Ａ区遺構検出状況（南から）…… 52
図版９　第２次調査区　Ｃ区俯瞰（北から）／Ｃ区全景（西から）…… 53
図版 10 第２次調査区　Ｃ区遺構検出状況（南西から）／１号墳土層断面（東から）…… 54
図版 11 第２次調査区　Ｄ・Ｅ区俯瞰（南から）／Ｄ・Ｅ区全景（東から）…… 55
図版 12 第２次調査区　Ｅ区全景（南から）／Ｇ区全景（南から）…… 56
図版 13 第２次調査区　Ｅ区全景（西から）／Ｅ～Ｇ区俯瞰（西から）…… 57
図版 14 第２次調査区　Ｆ区全景（真上から）／９号墳全景（北から）…… 58
図版 15 第２次調査区　Ｄ区全景（南から）／大溝〔ＣＳＤ－１）土層断面（北から）… 59
図版 16 第２次調査区　ＣＳＫ-１遺物出土状況／１号墳北側周溝埴輪出土状況（南から）… 60
図版 17 第２次調査区　１号墳検出状況（北から）／１号墳南側周溝埴輪出土状況（西から）… 61
図版 18 第２次調査区　４号墳周溝鶏形埴輪出土状況…… 62
図版 19 須恵器壷　左 ６号墳・右 12 号墳／遺物番号 23・44 …… 63
図版 20 円筒埴輪　１号墳－遺物番号 83 …… 64
図版 21 円筒埴輪　２号墳－遺物番号 102 …… 65
図版 22 巫女形埴輪　２号墳－遺物番号 98 …… 66
図版 23 家形埴輪　２号墳－遺物番号 99 …… 67
図版 24 馬形埴輪　２号墳－遺物番号 100 …… 68

第１章　地理・歴史的環境

１．地理的環境（図１）

茨木市は淀川の北部、大阪府東北部に位置し、南北 17㎞、東西 10㎞と南北に長く、東西に短い範囲を市域とし、東は高槻市、西は吹田市・箕面市・豊能町、南は摂津市、北は老の坂山地を挟んで京都府亀岡市と接する。豊能町との境には竜王山（標高約 510m）や石堂ヶ丘（標高約 680m）がそびえ、これらに源を発する安威川・佐保川・茨木川・勝尾寺川が市内を南流する。本市の地理的特徴は、北半部と南半西部、南半東部の三つの地域に大きく分けられ、北半部は、標高 300 m前後の北摂山地及び、それから派生する丘陵が占める。南半西部は、標高 50 ～ 100 m前後で洪積層からなる千里丘陵の裾がのびており、南半東部には、市域東部を南流する河川によって形成された沖積層からなる三島平野が広がる。

なお京都と大阪を結ぶ本市は、交通の利便さから近年人口が純増傾向にあり、都市化が急速に進む地域でもある。

２．歴史的環境（図１・２）

茨木市内で最も古い人類の痕跡は、山麓部の初田遺跡や丘陵部裾の太田遺跡、安威遺跡などに残されている。平野部に立地する東奈良遺跡や新庄遺跡などでは、表面採集や後世の包含層内で検出された、旧石器時代後期のナイフ型石器や有舌尖頭器が認められる。

縄文時代は、東奈良遺跡から前期末頃の爪形文土器の発見をはじめ、後期から晩期になると耳原遺跡において縄文晩期の深鉢棺墓群（16 基）が発見され、総持寺遺跡においても甕棺墓と考えられる土器が出土している。牟礼遺跡では、縄文晩期から弥生前期の土器や弥生前期の水田跡、井堰等が検出されるなど、茨木市域に人々が定住化する傾向がうかがえる。

弥生時代前期には、東奈良遺跡、目垣遺跡、総持寺遺跡、溝咋遺跡、新庄遺跡に集落跡がみられる。前期末には、耳原遺跡や郡遺跡にも集落が形成され、中期および後期には遺跡数が急激に増加し、倍賀遺跡、中条小学校遺跡などの河川の両岸や北部の丘陵、山地まで遺跡の分布が広がりをみせるようになる。特に東奈良遺跡は、前期末～中期初頭にかけて集落規模が最大になり、弥生時代をとおして集落が継続する。また、集落の拡大は、幾重もの環濠が中心域から外へ外へと可能な限り拡大をみせることからもうかがわれ、国の重要文化財に指定されている多数の石製銅鐸鋳型などが出土していることから、青銅器などの鋳造工房を持った拠点的な集落であると考えられている。

古墳時代になると、前期に北部の丘陵に佐保川をはさんで右岸に紫金山古墳、左岸に将軍山古墳という全長 100 m前後の前方後円墳が相次いで築造される。特に紫金山古墳からは、後円部中央の竪穴式石室内から、銅鏡 12 面や鉄製の甲のほか、鉄製刀剣、鉄鏃、鉄斧、鉄鎌、鉄製三又鍬、車輪石、貝輪、筒形銅器などの豊富な副葬品が出土した。中期には、「継体天皇三嶋藍野陵」に治定されている前方後円墳である三嶋最大の太田茶臼山古墳が全長 226 mの規模で築造される。また、総持寺遺跡内には太田茶臼山と同時期の小規模古墳43基が密集する。これらの古墳に樹立される埴輪は、いずれも高槻市新池埴輪窯で製作されたものである。後期

には、茨木市内の古墳築造が全盛を迎える。南塚古墳や青松塚古墳、海北塚古墳は、甲冑や装飾付大刀、金銅装の馬具などを副葬する有力墳として著名である。南塚古墳は全長 50m の前方後円墳であり、三島地域で最古の横穴式石室を主体部とする。耳原古墳は、三島地域最大の横穴式石室を主体部とする円墳で玄室奥には蓋に計 6 個の縄掛突起を持つ家型組合式石棺、羨道近くには蓋に計 2 個の円形突起を作り出す家型刳抜式石棺といった形式の異なる 2 基が安置されている。そのほか終末期古墳として、阿武山古墳や初田 1 号墳、上寺山古墳がある。阿武山山頂近くの南斜面（標高 214m）に位置する阿武山古墳は、墓域は高槻と茨木の市境にまたがるが、石室は高槻市側にある。石室内には麻布を漆で塗り重ねてつくった夾紵棺が安置され、棺のなかには、玉枕や金糸などが副葬され、藤原鎌足の墓とみる意見がある。

市内に築かれた古墳は 200 基以上にもおよび、新屋古墳群、安威古墳群、長ヶ淵古墳群、桑原古墳群など横穴式石室を主体とする群集墳が山裾部を中心に築造される。また、低位段丘から平野部においては、太田古墳群（今回調査）、総持寺古墳群、中条小学校遺跡、東奈良遺跡、郡古墳群などのように、横穴式石室を持たない直葬の古墳群が多くみられる。

古代の飛鳥時代には、太田廃寺・穂積廃寺・三宅廃寺などの有力氏族寺院が建立された。とくに太田廃寺からは、塔婆心礎とその内部に納められた舎利用器一式、複子葉弁軒丸瓦・忍冬唐草文軒平瓦などが出土している。奈良時代になると、摂津は 12 の郡に分けられ、茨木市域は摂津国嶋下郡に編成される。嶋下郡は、新野・宿人・安威・穂積の四郷からなり、現在でも市内には郡や郡山という地名が残る。平城遷都にともない、嶋下郡には「殖村駅」が置かれ、茨木市域は宮都から難波や山陽・西海道諸国への公的な通路となる。この通路は、近世の西国街道や現代の名神高速道路などにもつながり、本市の交通の要衝たる特徴は、その地形的特色からか古来以来脈々と受け継がれている。平安時代の茨木市域の多くは、藤原氏の荘園であったことが文献に記される。また、中納言 藤原山蔭創建の総持寺など、山林寺院である忍頂寺など多くの寺院が存在したことが知られる。さらに、『延喜式』には、嶋下郡に 13 社もの神社がみられ、これは『弘仁式』にまでさかのぼると考えられている。このように、多くの寺社が市内全域にわたってみられ、古代以来の信仰という側面も本市の歴史を考える上で、たいへんに重要な視点である。

「いばらき」の地名がみえる文献上の最も古い記録として、鎌倉初期の正治元年（1200）11 月 3 日の神国正田地売券に「嶋下郡中条茨木村四条七里六坪」がある。

中世の遺跡としては、東奈良遺跡や中条小学校遺跡、舟木遺跡、新庄遺跡、玉櫛遺跡、郡遺跡、総持寺遺跡などの集落遺跡が挙げられる。さらに、中世から近世初頭の遺跡には、茨木城、三宅城、福井城、安威城、郡山城、泉原城、太田城、目垣城などの城郭があるとされるが、その全容は不明なことが多い。現在の茨木市中心部となっている茨木川沿いには、茨木城が築かれた。その城主は、茨木氏、中川氏、片桐氏と変遷するなか、城の規模や有り様も変化したと考えられ、一国一城令により廃城になった後も、現在に至るまで水路や地割等に影響している。しかしながら、茨木城や廃城後の近世在郷町の実態はなお不明な点が多く、発掘調査によって得られる知見は、その解明において重要である。

近世には西国街道沿いに、唯一残る国史跡　郡山宿本陣がいまなお残されており、往時を偲ばせる佇まいをみせる。

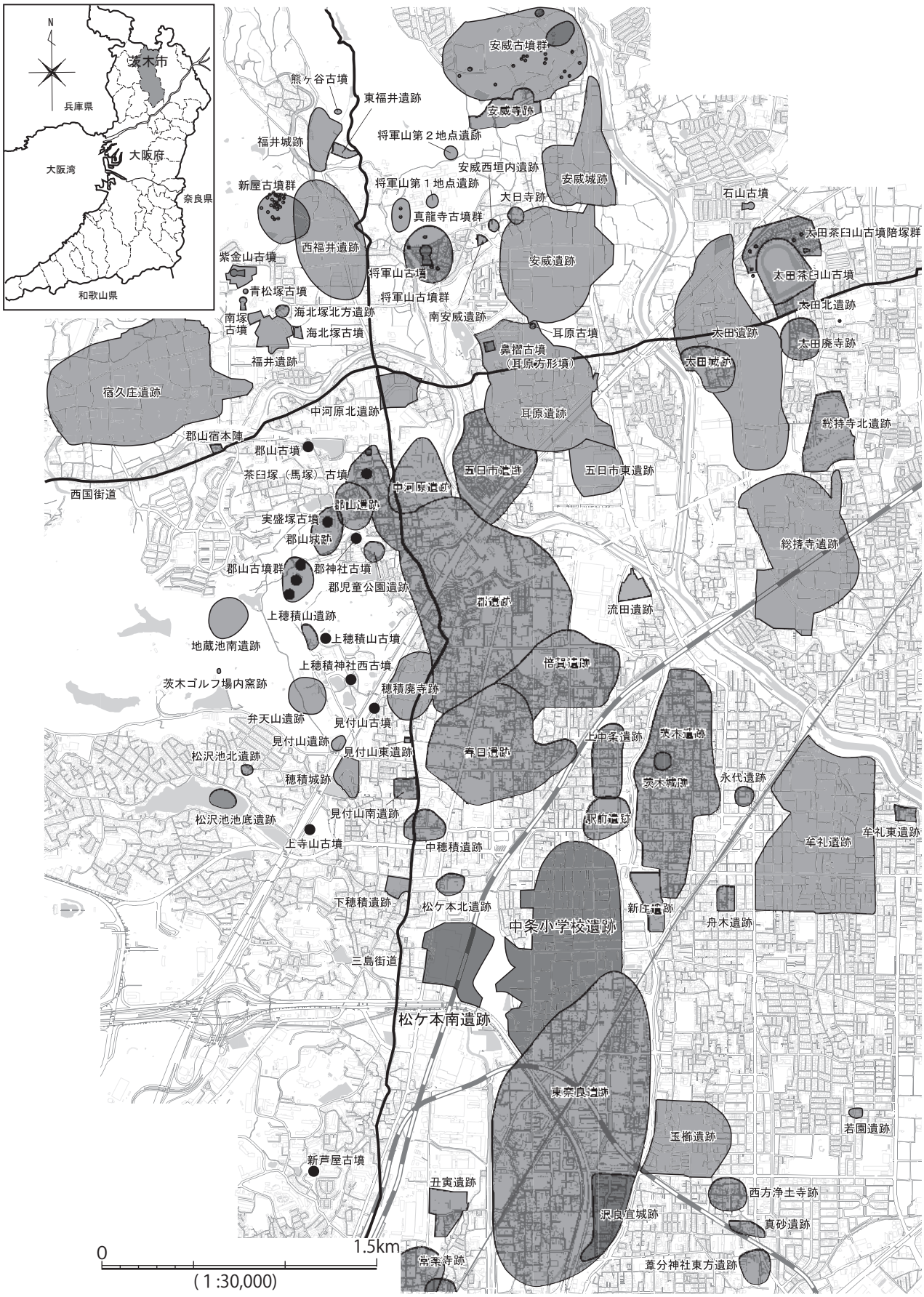


図１　茨木市内遺跡分布図

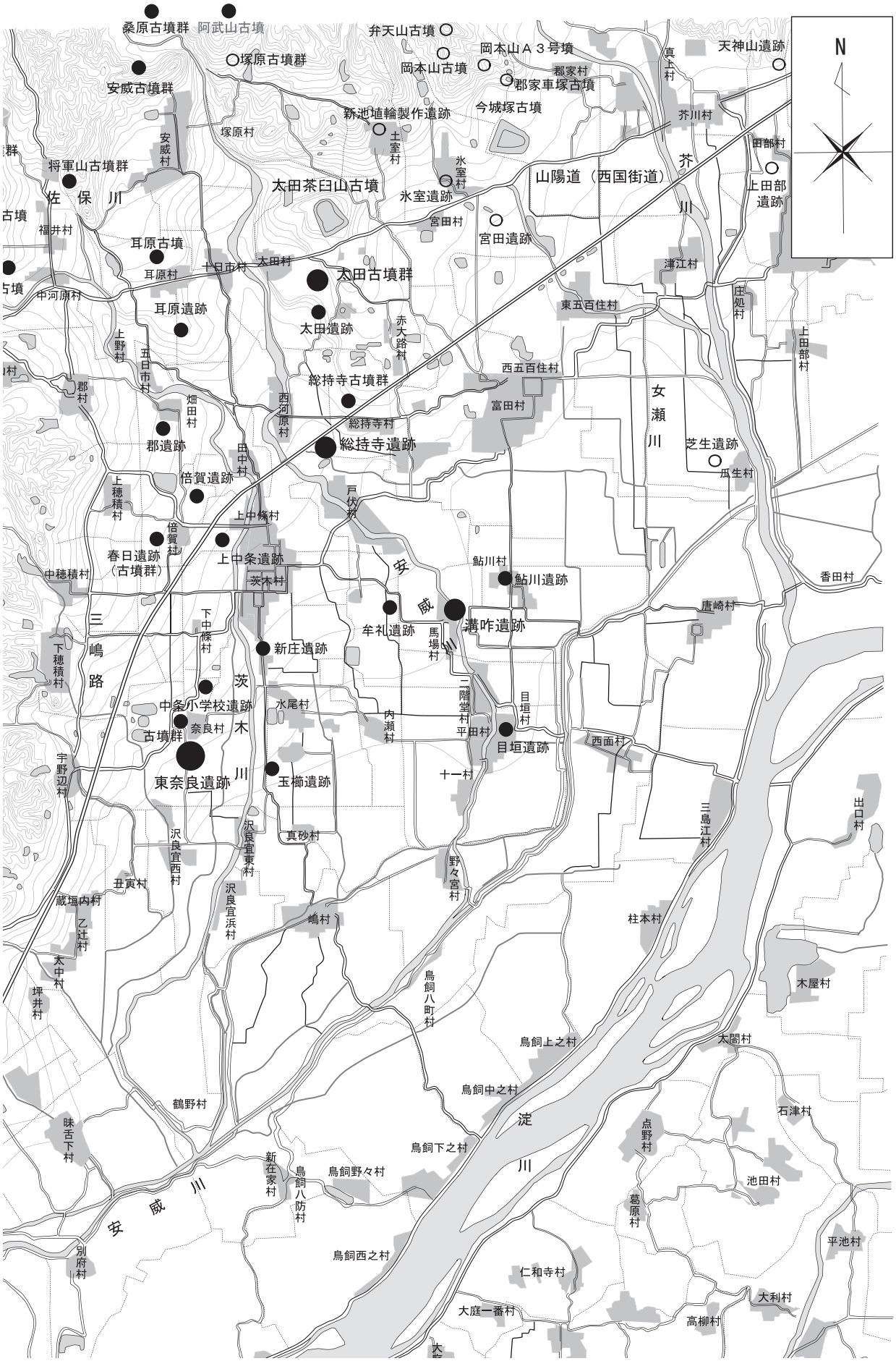


図２　明治期の三島平野の地形と遺跡分布図

第２章　調査成果

１．太田遺跡と周辺の遺跡（図３）

太田遺跡　阪急京都線総持寺駅の北西 500 m、富田台地の段丘西側沖積面に立地し、花園１丁目・太田２丁目・太田東芝町の南北 1.7㎞・東西 0.6㎞の範囲に広がる弥生時代～中世の複合遺跡である。1973 年（昭和 48 年）、東太田一丁目での大阪府教育委員会による発掘調査にはじまり、遺跡南端付近において、寮建設に伴う発掘調査を本市が 1985 年（昭和 60 年）に実施し、竪穴式住居や溝、土壙、柱穴が検出され、弥生土器と須恵器が出土したことから遺跡の南側では弥生時代～古墳時代の遺構が広がっていることがわかった。また、1999 年（平成 11 年）、遺跡北側の共同住宅建設に伴う調査では弥生時代後期の竪穴式住居や古墳時代の建物跡などを確認した。

太田遺跡（太田北古墳群）　1994 年（平成６年）、太田遺跡の北端に位置する太田茶臼山古墳の西に隣接した場所で、名神高速道路の拡幅工事に伴う調査で、石室を伴う４基の古墳と１基の円筒埴輪棺が発見された。古墳の残存状態が悪いため、墳形は不明である。円筒埴輪棺は３個の円筒埴輪が使われ、３本の突帯をもつ小型品で口縁部に矢印状のヘラ記号を施しており、同様の記号が須恵器に付されたものが郡遺跡（平成 14 年度）から出土している。高槻市新池遺跡のＣ群窯の 18 号窯出土埴輪と酷似し、円筒埴輪編年Ⅴ期に位置付けられる。

太田茶臼山古墳（継体天皇陵三嶋藍野陵）　太田遺跡北東の太田３丁目地内に築造された墳丘全長 226 m・前方部幅 147 m・前方部長 117 m・前方部高 19.8 m・後円部径 138 m・後円部高 19.2 m・濠幅 28 ～ 33 mを測る前方後円墳で、淀川右岸では最大規模を誇る。墳丘は３段築成でくびれ部には造出しがみられ、周囲は周濠がめぐり、さらにこれを取り囲むように幅 30 m程度の周堤がめぐる。継体天皇陵として宮内庁が治定・管理しており、下記に示すとおり、これまでの調査により出土した埴輪から円筒埴輪編年のⅣ期に属するため、古墳時代中期中葉（５世紀中葉）であるとされ、墳丘や埴輪の特徴から継体大王の没年よりも半世紀以上前に築造されたと古墳である。このことから、真の継体天皇陵は高槻市郡家の今城塚古墳が有力視されている。

（既往調査）
1959 年（昭和 34 年）　名神高速道路建設のため事前地形実測調査。
1972 年（昭和 47 年）　大阪府教委　古墳北西部外周調査。（円筒埴輪列検出）
1984 年（昭和 59 年）　宮内庁　見張所調査。（書陵部紀要 37 号）
1986・7 年（昭和 61・62 年）宮内庁　外堤護岸工事に伴う調査。（書陵部紀要 39・40 号）
1988 年（昭和 63 年）茨木市教委　西南部外周・公民館建設工事に伴う調査。（円筒埴輪列検出。）
1993・5 年（平成 5・7 年）　茨木市教委　南部外周・民間事業に伴う調査。（埴輪片・須恵器出土。）
2002・3 年（平成 14・15 年）　宮内庁　外堤護岸工事に伴う調査。（書陵部紀要 55・56 号）

太田石山古墳　太田茶臼山古墳の北西約 200 mの花園２丁目地内に築造された古墳で、1967 年（昭和 42 年）に部分的なトレンチ調査、1986 年（昭和 61 年）に発掘調査が実施された。調査の結果、円形にめぐる墳丘裾部の葺石と周溝が検出されたものの、全体の４分の３が失われていたため、墳形が前方後円墳または径 28 mの円墳と考えられている。出土遺物は、鉄斧、鉄鏃、鉄刀、円筒埴輪、家形埴輪、蓋形埴輪などがあり、円筒埴輪編年のⅢ期に位置付けられるとしており、築造は中期前葉（５世紀前葉）とされている。

太田北遺跡　太田遺跡の東に位置し、太田茶臼山古墳の外周を囲む古墳時代～中世の複合遺跡で、1988 年（昭和 63 年）、太田茶臼山古墳の前方部南西端に近接する場所で公民館建設にともなう発掘調査で、円筒埴輪列が発見された。この調査により、周濠の南側にも堤（周堤）があることが確実となった。その後、同様に太田茶臼山古墳前方部中央やや東よりの場所で、1993 年（平成５年）および 1995 年（平成７年）に発掘調査を実施したが、落ち込みから中世の瓦質土器とともに円筒埴輪が出土したものの埴輪列は確認されなかった。この前方部に面した周堤出土の円筒埴輪は、円筒埴輪編年のⅣ期に属し、古墳時代中期中葉（５世紀中葉）に位置付けられる。

太田廃寺跡　太田遺跡東側の段丘崖上、太田茶臼山古墳南側の同一段丘面の東太田２丁目に位置するおよそ東西南北 200 mの範囲に広がる古代の寺院跡である。1907 年（明治 40 年）に舎利容器一式（重要文化財 - 東京国立博物館所蔵）を納めた塔婆心礎が発見された。また、複子葉弁文端丸瓦・忍冬唐草文端平瓦が見つかるなど太田廃寺の創建は飛鳥時代後期（天武朝 672 ～ 686 年）頃と推定されている。

太田城跡　太田遺跡の西に隣接する太田１丁目に位置し、およそ東西南北 150 mの範囲に広がる平安時代末（12 世紀末）頃に築かれた平城と推察されている。安威川左岸沿いで集落の中央を西国街道が横断する。多田源氏の太田太郎頼基が城主の頃、源頼朝から追われ都から西国街道を西へ落ちのびていく源義経と河原津（安威川 - 太田橋付近）で一戦を交えたとされる。

総持寺北遺跡　太田遺跡の南東、総持寺遺跡北側の東太田３丁目・三島丘２丁目に位置し、およそ南北 450 m・東西 300 mの範囲に広がる古代～中世の集落遺構が中心となる遺跡である。1994 年（平成６年）、高層住宅建設にともない、現（公財）大阪府文化財センターが、国道 171 号線南側に面する発掘調査を実施した結果、飛鳥時代～鎌倉時代（７～ 14 世紀前葉）の建物群を中心とする遺構が多数検出され、烏帽子が出土した。また、遺跡北端では、1995 年（平成７年）、1996 年（平成８年）、2001 年（平成 13 年）に本市が発掘調査を実施し奈良時代末～平安時代中期（８～ 10 世紀）の建物跡を中心とする遺構を検出し、太田廃寺所用とみられる重弧文軒平瓦や円面硯が出土している。

総持寺遺跡　総持寺遺跡は太田茶臼山古墳、太田北遺跡、太田廃寺跡、総持寺北遺跡ともに北摂山地から派生した下位段丘上の「富田台地」と呼ばれる上に立地する。この富田台地は南東に向かって緩く傾斜しながら大きく舌状に張り出し、東西約 2km、南北約 2.5km の広大な段丘面を形成し、標高は 15 ～ 30 mを測る。遺跡の西側には比高５～６mの段丘崖を介して安

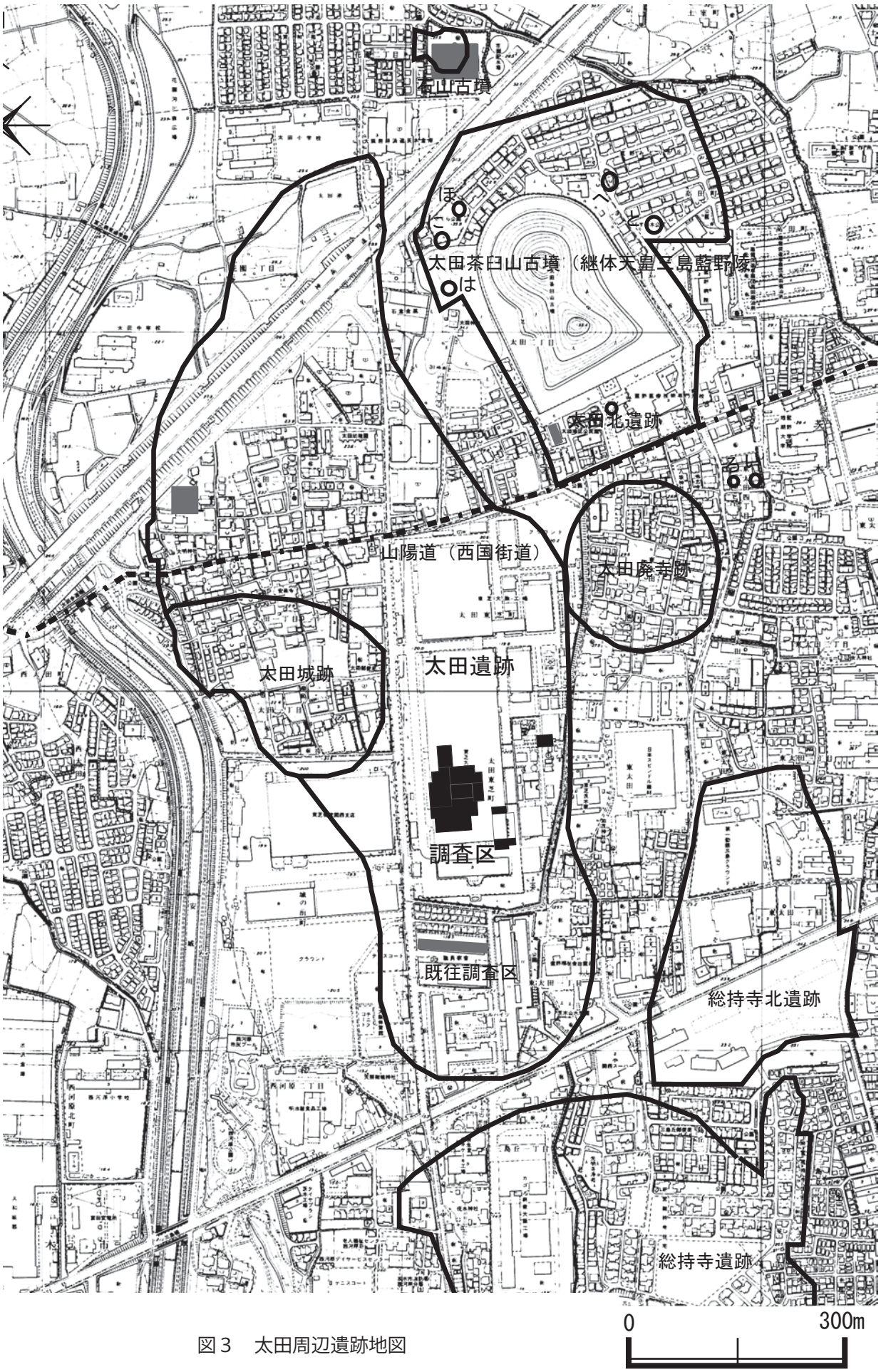

石山古墳
ほ
に
へ
と
太田茶臼山古墳（継体天皇三島藍野陵）
は
太田北遺跡
山陽道（西国街道）
太田廃寺跡
太田城跡
太田遺跡
調査区
既往調査区
総持寺北遺跡
総持寺遺跡
0
300m

図３　太田周辺遺跡地図

威川が造りだした沖積地が広がり、東側は女瀬川・芥川が開析し、同じく南側には沖積平野が広がる。総持寺遺跡の主だった部分は、安威川左岸沿いの富田台地南西部に位置する。遺跡の範囲は東西約 550m、南北約 850m におよび、弥生時代～中世に至る複合遺跡である。総持寺北遺跡を含む台地上の北側では、飛鳥時代～平安時代前期頃（７～９世紀）の建物跡が 200 棟以上発見され、硯・墨書土器・石製巡方・圏足円面硯・塼・『調』とヘラ書きされた須恵器が出土した。続く平安時代中期～鎌倉・室町時代を通して大規模な集落が存続する集落遺構が中心であるのに対し、南側の台地先端付近は古墳群が広がっている。さらに遺跡の西側、段丘崖下の沖積面には、弥生時代後期～古墳時代前期にかけての溝（水路）を中心とする遺構や中世の耕作溝が広がる。

総持寺遺跡（総持寺古墳群）　太田遺跡の南、三島丘１・２丁目・総持寺１丁目・総持寺駅前町・庄１丁目に広がる弥生時代～中世の複合遺跡で、富田台地の南西端に位置し、段丘下の沖積面では、弥生時代後期の集落や古墳時代の祭祀関連遺構、中世の耕作溝（荘園）が複数面発見されるなど、古くから土地利用が活発な場所である。

比高差７m前後の段丘崖に面する台地先端では、府営住宅の建て替えに伴う大阪府教育委員会の発掘調査で、方墳主体の 43 基の古墳が発見された。43 基の古墳のうち、４号墳のみ円墳で他はいずれも方墳であった。墳丘は最大でも一辺 15 m前後で上部が削平されており、埋葬施設は失われていたものの、周溝から須恵器や埴輪が出土し、５世紀前葉から中葉にかけて築造された古墳群であることが判明している。古墳群から出土した埴輪の多くが、太田茶臼山古墳の埴輪を焼成した高槻市新池埴輪窯（Ａ群窯）で生産されたもので、太田茶臼山古墳と総持寺古墳群の密接な関係性が指摘されている。さらに、太田茶臼山古墳の円筒埴輪は４条の突帯５段の埴輪を基調とし、総持寺古墳群の円筒埴輪は２条の突帯３段の小型品である。

２．太田遺跡の発掘調査

１）調査の経緯

今回の調査は、東芝家電製造株式会社大阪工場移転による土壌改良工事にともなう発掘調査である。平成 20 年６月 10 日に工場建物解体工事および土壌改良工事を受注した株式会社 竹中工務店からの調査依頼の提出を受けて、工場解体にあわせ同年６月 23 日に構内通路や植栽部分の計９ヵ所で第１次の確認調査を実施した。その結果、現地表面下 0.65 ～ 1.7 mの深さで、４ヵ所のトレンチから遺物包含層および遺構面を確認し、北側に設定したトレンチは遺構面までの深さは浅く、敷地南側に移動するにつれ遺構面まで深いことが判明した。さらに、同年７月 31 日に敷地中央東側部分（14 号棟）で土壌改良工事のため、東西に３ヵ所のトレンチを設定して確認調査を行ったところ現地表面下 0.85 ～ 1.2 mの深さで、２ヵ所のトレンチから遺構が確認されたため、第１次発掘調査を実施することとなった。

また、解体工事が進んだ第１工場内の土壌改良工事部分において、同年９月 19 日、24 日、26 日に 10 ヵ所のトレンチを設定し、第３次確認調査を実施した。その結果、現地表面下 0.7 ～ 2.1 mの深さで、１ヵ所を除くすべてのトレンチで遺構および遺物包含層を確認した。ここでも、第１次確認調査同様、敷地南側に移動するにつれて遺物包含層および遺構面まで深いこ

とが確認された。

第１次発掘調査は、調査面積 364㎡を平成 20 年 10 月２日～同年 11 月６日までの期間で実施した。調査終了後、第１工場内の第２次発掘調査について、平成 20 年 10 月 30 日に大阪府教育委員会文化財保護課と協議を行った。協議内容は環境モニタリングの結果、一部、重金属・ＶＯＣ汚染土が検出された箇所について、健康への配慮から発掘調査を除外することについて協議を行った。結果、当該箇所を調査対象外にすることは可としたうえで油汚染土の箇所については、対策を講じたうえで第１工場内の発掘調査を実施するよう見解が示された。本市の環境担当課からも健康への配慮について、土壌汚染対策法に基づく調査および工事を行ううえでの留意事項が示されており、発掘調査もこれに準じて行うこととなったことから、その後、事業者と協議を行い、周辺住民へ埋蔵文化財発掘調査のお知らせ及び発掘調査範囲を山留にて遮水壁を構築するなど、第２次発掘調査の準備が進められた。

第２次発掘調査は、上記の協議・対策を踏まえ調査面積 6,010㎡を平成 20 年 12 月８日～平成 21 年３月 28 日までの期間で実施した。発掘調査は、①粉じん対策、②作業員や機材に付着した油汚染土壌の持ち出しの禁止、③排水・雨水対策、④悪臭対策、⑤環境監視のもと定期的に発注者・施工関係者との協議を実施しながら安全に配慮して進められた。油汚染土壌は地点により濃度・深度が異なるため、場外処分や改良処理など細かく決められており、重機による表土掘削作業は掘削深度を常に計測しながら土を分別し、さらに無数にある環境モニタリングの監視井戸を避けるなど困難を極めたが、関係者一同の協力により発掘調査は順調に進んだ。

２）調査概要（図４）

今回の発掘調査の調査区は敷地南半に集中し、東側の段丘崖付近の第１次調査区（14 号棟）と第１工場地内の第２次調査区である。第２次調査区では工事工程と調整した結果、調査区をＡ～Ｇ区の７調査区に設定し、発掘調査はＡ～Ｇのアルファベット順のとおり進めた。敷地が広大であるため、第１次調査区と第２次調査区では東西に 80 m、第２次調査区は北に位置するＣ区からＧ区南端までは 120 mほどの距離がある。調査地は工場として利用する際にもともと緩斜面であった場所を整地したもので、調査結果からも緩斜面であったことが裏付けられた。いずれも遺物包含層下の地山面で、Ｃ区北側が標高 19.6 m、Ａ区が標高 18.1 m、Ｂ区西側が標高 17.9 m、東側が標高 18.5 m、Ｆ区南側が標高 18.4 m、Ｇ区南側が標高 18.3 mであった。このことから、第２次調査区の南北 120 mの距離で 1.3 mほど南に低く、東西 80 mの距離で 0.3 mほど東に低い。また、東側の第１次調査区では西側が標高 19.0 m、東側が標高 19.4 mを測る。

第１次および第２次調査区は、第１面で平安時代後期～鎌倉時代の耕作溝や柱穴を検出し、第２面では弥生時代の土壙や溝、古墳時代中期の埋葬施設が削平された円墳５基・方墳７基、奈良時代～平安時代前期の南北にのびる石敷遺構や同じく南北にのびる大溝、建物を構成する柱穴など同一面に３時期の遺構を検出した。

出土遺物は、弥生時代後期の甕や石斧、古墳時代中期の円筒埴輪や形象埴輪（巫女型・人物頭部・馬・鶏・家）・須恵器・土師器、飛鳥～奈良時代の須恵器・土師器・平瓦、平安時代～鎌倉時代の緑釉陶器・黒色土器・土師皿・瓦器椀などがあり、遺物収納コンテナ 127 箱分の遺物が出土した。

図４　太田遺跡発掘調査区位置図

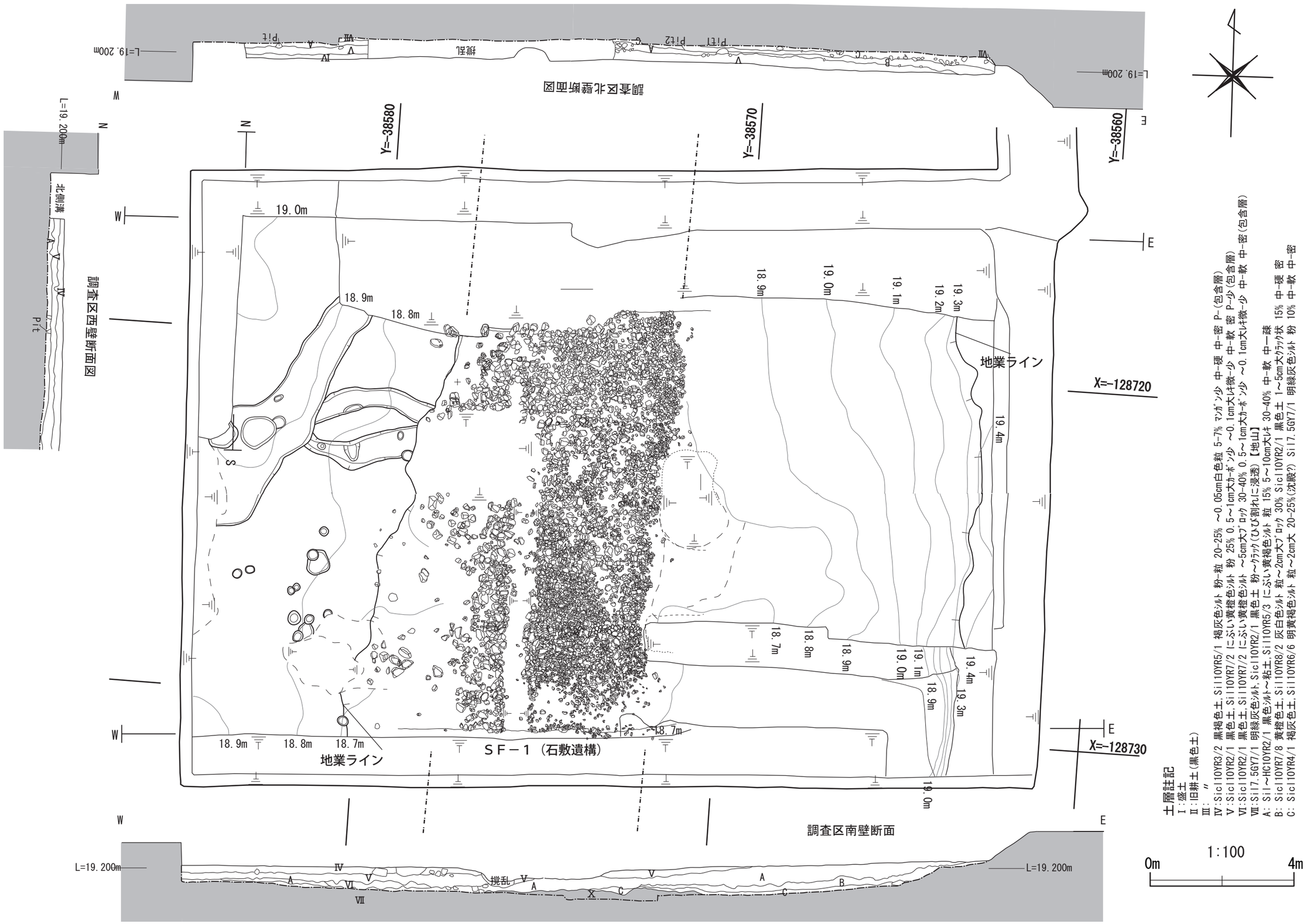


図５　第１次調査区平・断面図

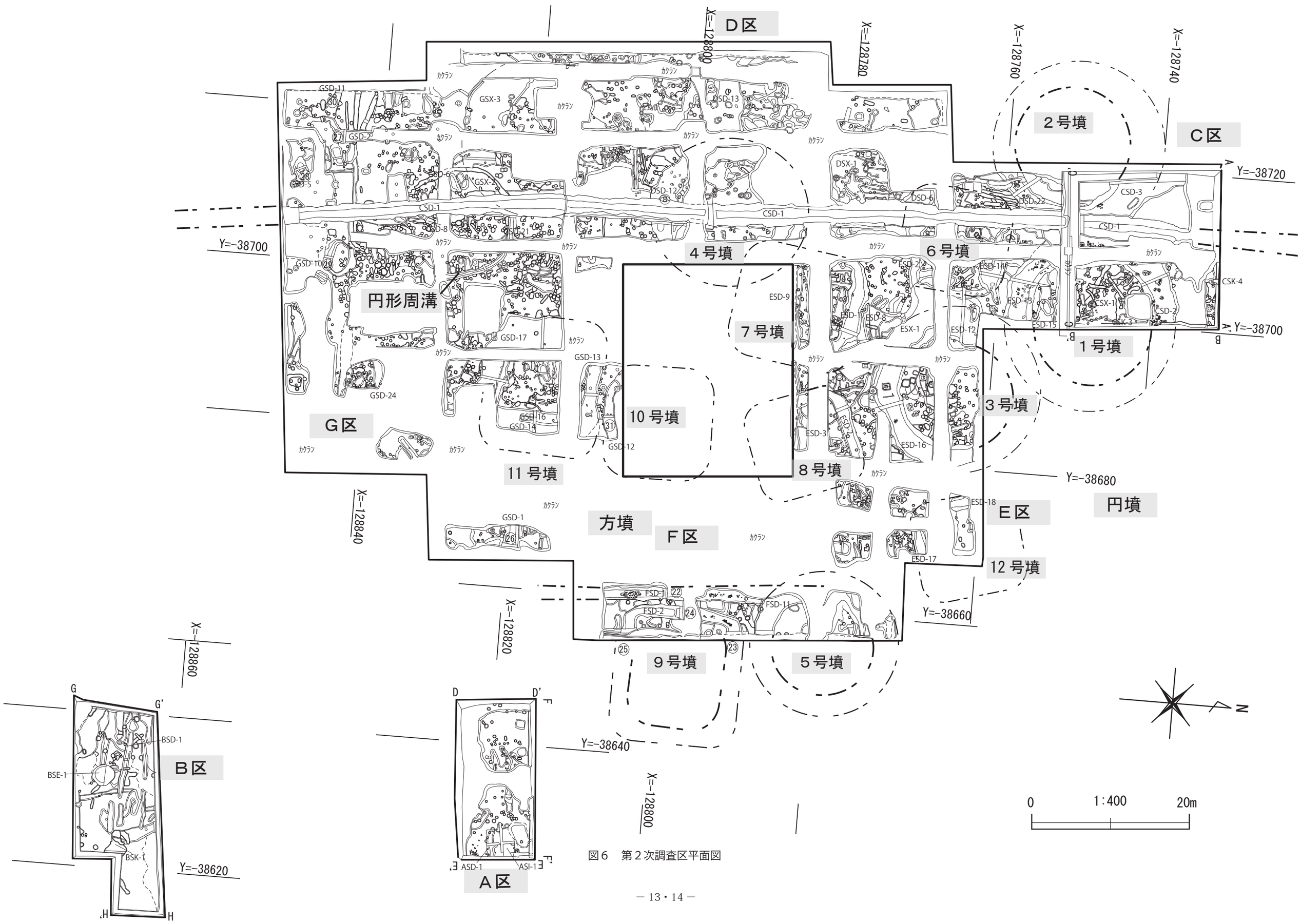
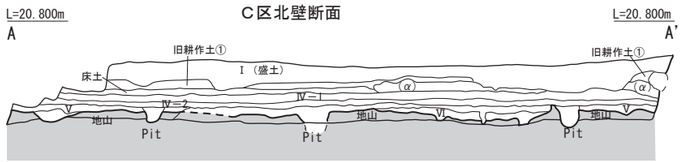


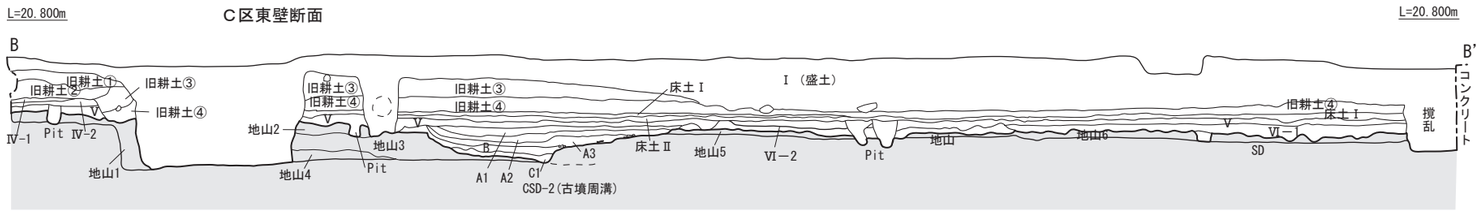
図６　第２次調査区平面図



【C区北壁断面】
Ⅱ・Ⅲ：旧耕作土Ⅰ:Sil7.5Y6/2 灰ｵﾘｰﾌﾞ色ｼﾙﾄ
：床土:Sil7.5Y6/3 灰ｵﾘｰﾌﾞ色ｼﾙﾄ
Ⅳ－1 :Sic10YR3/3 暗褐色ｼﾙﾄ質埴土
Ⅳ－2 :Sicl10YR3/2 黒褐色土
Ⅴ:Sicl10YR2/1 黒色土
Ⅵ:Sicl10YR3/2 黒褐色土,Sil10YR8/4 浅黄橙色ｼﾙﾄ 粒～0.5cm大ﾌﾞﾛｯｸ 30% 0.5cm大ｶｰﾎﾞﾝ少含 中-軟 中-密
Ⅶ：地山:Sic～Sil10YR5/2 灰黄褐色ｼﾙﾄ質埴土～ｼﾙﾄ
(α):Sil10YR6/6 明黄褐色ｼﾙﾄ,Sil2.5GY7/1 明ｵﾘｰﾌﾞ灰色ｼﾙﾄ 粒 40-50% ﾏﾝｶﾞﾝ多 ～0.3cm大ﾚｷ中 硬 密

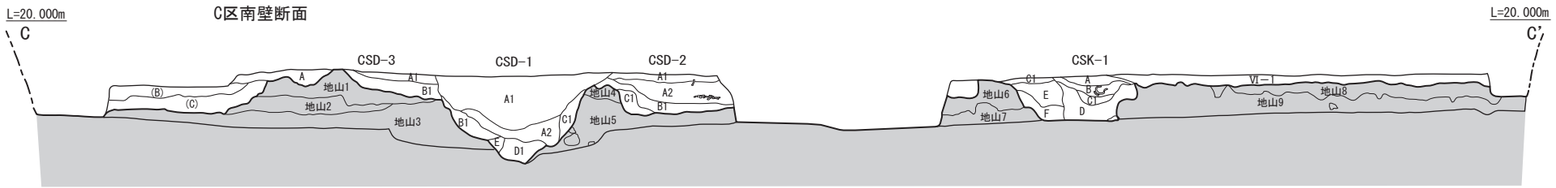
【C区東壁断面】
Ⅱ（旧耕土①）:Sil10G6/1 緑灰色ｼﾙﾄ
Ⅱ（旧耕土②）:Sil7.5YR6/6 橙色ｼﾙﾄ
Ⅱ（旧耕土③）:Sil10G6/1 緑灰色ｼﾙﾄﾌﾞﾛｯｸ
Ⅱ（旧耕土④）:Sil～Sicl10G5/1 緑灰色ｼﾙﾄ～土

地山1:Sic5PB7/1 明青灰色ｼﾙﾄ質埴土
地山2:10YR8/3 浅黄橙色
地山3:SL10Y7/1 灰白色砂壌土 粗砂 0.5～3mm大 50-60%
地山4:Sil～HC7.5Y8/2 灰白色ｼﾙﾄ～粘土
地山5:Sil10YR8/2～8/1 灰白色ｼﾙﾄ
地山6:ややSL 砂壌土 ～2～3mm大白色ﾚｷ多 20-25% Sic10Y8/1 灰白色ｼﾙﾄ質埴土



【SD】Sicl10YR2/1 黒色土 P-多

【CSD-2(古墳周溝)】
A1:Sicl10YR2/1 黒色土,Sil10YR8/2 灰白色ｼﾙﾄ 粒～0.3cm大 15-20% 埴輪少 中-硬 中-密 ～0.2cm大白色ﾚｷ少-中
A2:Sicl10YR2/1 黒色土,Sil10YR8/2 灰白色ｼﾙﾄ 粒～0.3cm大 10% 埴輪少 中-硬 中-密 ～0.2cm大白色ﾚｷ少
A3:Sicl10YR2/1 黒色土,Sil10YR8/2 灰白色ｼﾙﾄ 粒～0.3cm大 ～1cm大 20-25% 埴輪多 中-軟 中-密
B1:Sicl10YR2/1 黒色土,Sil～Sic10YR6/3 にぶい黄褐色ｼﾙﾄ～ｼﾙﾄ質埴土 粒～2mm 30%
Sic10GY7/1 明緑灰色ｼﾙﾄ質埴土 粒～1cm大10% ～3mm大ﾚｷ20% 中-軟 中-疎 埴輪中
C1:HC10GY7/1 明緑灰色粘土,Sic～SL10YR6/3にぶい黄褐色ｼﾙﾄ質埴土 粒～2mm 50% Sicl10YR2/1 黒色土 粒 10% 中-軟 中-疎



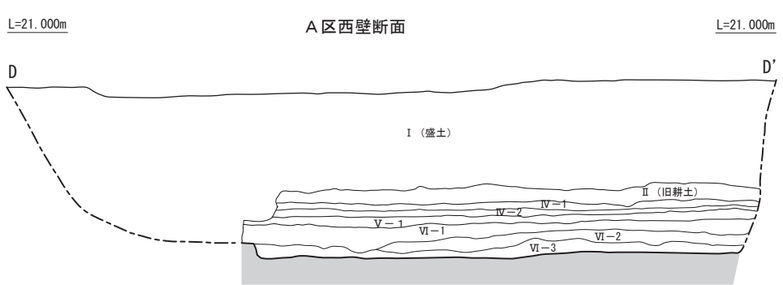
【C区南壁断面】
(B) :Sic10YR8/4 浅黄橙色ｼﾙﾄ質埴土,Sil10YR8/8 黄橙色ｼﾙﾄ 0.5～1cm大 10% ～0.2cm大白色ﾚｷ多 中-軟 中-密
(C) :Sic10YR8/4 浅黄橙色ｼﾙﾄ質埴土,Sil10YR8/8 黄橙色ｼﾙﾄ 0.5～1cm大 20%
Sicl10YR3/1 黒褐色土 1～3cm大ﾚｷ中 中-硬 中-密
地山1:HC10YR8/2 灰白色粘土,Sil10YR5/8 黄褐色ｼﾙﾄﾌﾞﾛｯｸ Sicl10YR3/1 黒褐色土 1～3cm大ﾚｷ中-多
地山2:Sil10YR6/6 明黄褐色ｼﾙﾄ,Sic10YR8/2 灰白色ｼﾙﾄ質埴土 1～3cm大ﾚｷ少-中
地山3:Sic10BG7/1 明青灰色ｼﾙﾄ質埴土 1～5cm大ﾚｷ多
地山4:10YR2/2～8/3 黒褐～浅黄橙色
地山5:砂ﾚｷ層
地山6:SL10YR7/3 にぶい黄橙色砂壌土 粗砂 60%,10YR8/2 灰白色 細砂 30-40%
地山7:砂ﾚｷ層 1～3cm大ﾚｷ 50-60%,細砂 10YR8/1 灰白色 40%
地山8:Sicl10YR2/1 黒色土 ～3cm大 10-15%
地山9:HC10YR8/1 灰白色粘土,HC10YR8/8 黄橙色粘土 3～10cm大ﾚｷ 5-10%

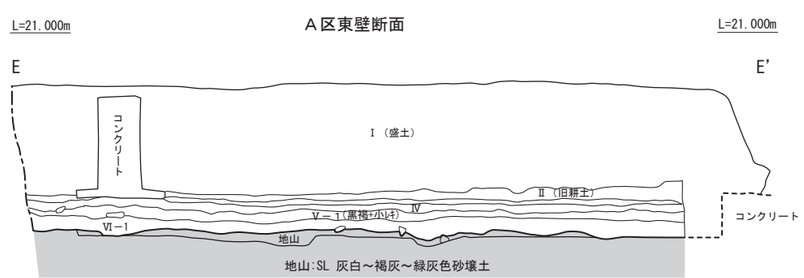
【CSK-1】
A:Sicl10YR2/1 黒色土,Sil10YR8/3 浅黄橙色ｼﾙﾄ 粉-粒 3～5mm大 25% ～0.3cm大ｶｰﾎﾞﾝ少 中-軟 中-疎
B:Sicl10YR2/1 黒色土,Sil10YR8/3 浅黄橙色ｼﾙﾄ 粉-粒 3-5% P-多 中-軟 中-疎
C:Sicl10YR2/1 黒色土,Sic5GY8/1 灰白色ｼﾙﾄ質埴土 粒～5cm大 50% 0.3cm大ｶｰﾎﾞﾝ中 中-軟 中-疎
D:Sicl10YR2/1 黒色土,Sic5GY8/1 灰白色ｼﾙﾄ質埴土 粒～5cm大 40% SL10YR6/3 にぶい黄橙色砂壌土
～0.2mm大層状 50% 中-軟 中-疎
E:Sil5GY8/1 灰白色ｼﾙﾄ,Sicl10YR2/2 黒褐色土 1～3cm大 5-7% 中-軟 中-疎
F:Sic～SL10YR7/2 にぶい黄橙色ｼﾙﾄ質埴土～砂壌土,Sicl10YR2/2 黒褐色土 1～3cm大 10% 軟 疎

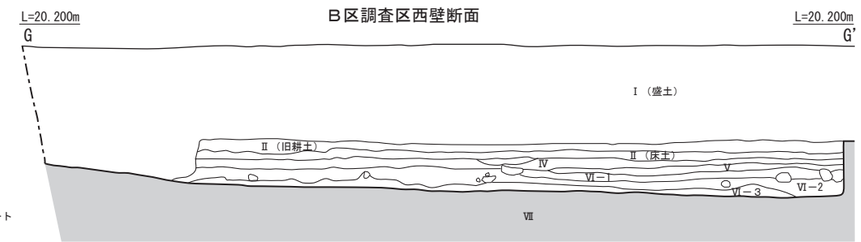
【CSD-1】
A1:Sicl10YR3/1 黒褐色土,Sicl10YR4/3 にぶい黄褐色土 5～15cm大ﾌﾞﾛｯｸ 20%
Sic10Y6/1 灰色ｼﾙﾄ質埴土 5～20cm大ﾌﾞﾛｯｸ 30-35% Sic10YR8/1 灰白色ｼﾙﾄ質埴土 1～5cm大ﾌﾞﾛｯｸ 10% 中-硬 中-密 5～10cm大ﾚｷ少-中
A2:Sicl10YR3/1 黒褐色土,Sicl10YR4/3 にぶい黄褐色土 ～1cm大ﾌﾞﾛｯｸ 5-7%
Sic10YR6/2 灰黄褐色ｼﾙﾄ質埴土 粒～3mm層状 30-40% ～1cm大ﾚｷ少 中-軟 中-密
B1:Sicl10YR3/1 黒褐色土,Sic～HC10Y6/1 灰色ｼﾙﾄ質埴土～粘土 ～1cm大 10% 0.5～2cm大ﾚｷ少 P-少-中 中-軟 中-密(古墳埋土)-２次埋没
C1:HC10BG7/1 明青灰色粘土,HC10YR8/6 黄橙色粘土 粉 25-30% 3～10cm大ﾚｷ多 中-硬 密
D1:Sicl～HC10YR2/1 黒色土～粘土,Sil10YR5/3 にぶい黄褐色ｼﾙﾄ 粉-粒 10% ～0.3cm大白色ﾚｷ 少 P-少 中-軟 密
E1:C層類似

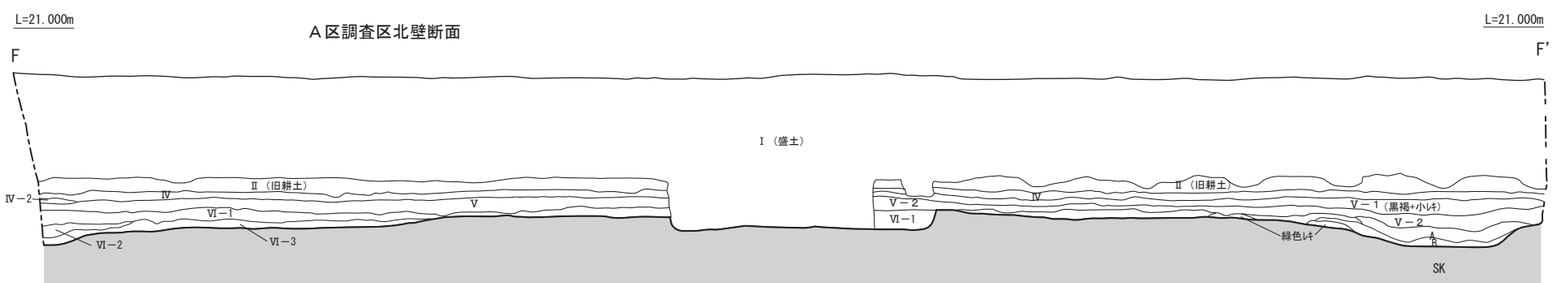
【CSD-3】
A:Sicl10YR3/1 黒褐色土,Sil10GY7/1 明緑灰色ｼﾙﾄ 層状 1cm厚 40-50% Sicl10YR4/3 粒～層状 15-20% ～1cm大ﾚｷ中 中-硬 中-密
HC10YR8/4 浅黄橙色粘土 0.5cm厚層状 5-7%
B1:Sicl10YR3/1 黒褐色土,Sic～HC10Y6/1 灰色ｼﾙﾄ質埴土～粘土 ～1cm大 10% 0.5～2cm大ﾚｷ少 P-少-中 中-軟 中-密

0　1:80　4m









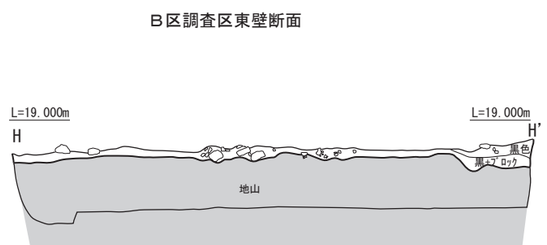


図７　第２次調査区断面図

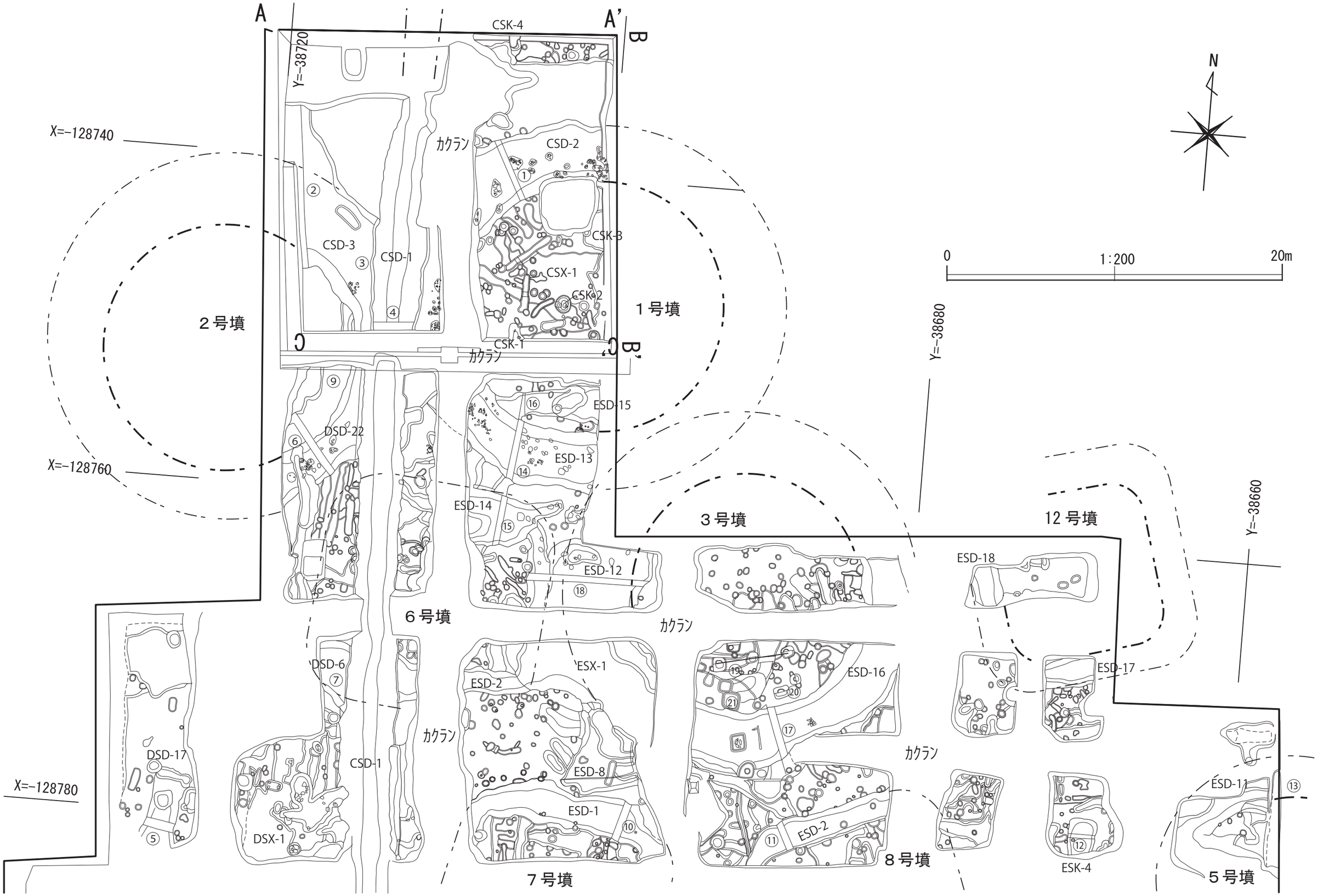
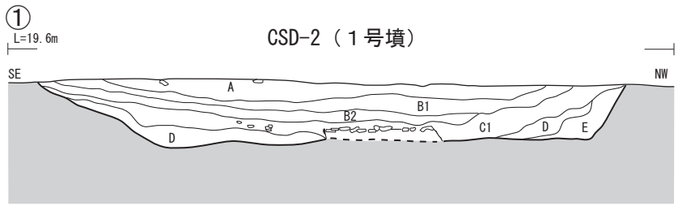


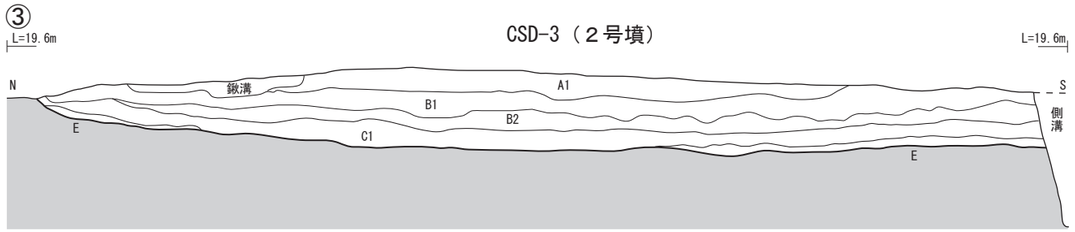
図８　第２次調査区遺構平面図（1～3号墳）

①



②

③

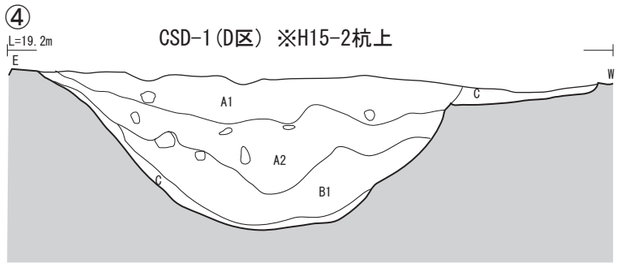


【CSD-2（１号墳）】
A:SiCl10YR3/1 黒褐色土,Sil10YR4/2 灰黄褐色ｼﾙﾄ 粒～0.5cm大 25-30% ～0.3cm大白色ﾚｷ少-中 埴輪少-中 硬 密
B1:SiCl10YR2/1 黒色土,Sil10YR4/3 にぶい黄褐色ｼﾙﾄ 粉-粒 30% ～0.1cm大白色ﾚｷ少 中-硬 密
B2:SiCl10YR2/1 黒色土,Sil10YR4/3 にぶい黄褐色ｼﾙﾄ 粉-粒 30-40% ～0.1cm大白色ﾚｷ少 中-硬 密
Sil～Sic10YR7/2 にぶい黄橙色ｼﾙﾄ～ｼﾙﾄ質埴土 粉 15%
C:SiCl10YR1.7/1 黒色土,Sil10YR4/3 にぶい黄褐色ｼﾙﾄ 粉-粒 10-15% ～0.1cm大白色ﾚｷ少 P(埴輪)多 中-軟 中-密
D:SiCl10YR2/1 黒色土,Sil10YR7/3 にぶい黄橙色ｼﾙﾄ 粉 20-30% ～0.1cm大白色ﾚｷ少-中 P-中 中-軟 中-密
E:SiCl10YR2/1～2/2 黒～黒褐色土,SL10YR6/3 にぶい黄橙色砂壌土 粒～粗砂(0.3cm) 50-60% 中-軟 疎
鍬溝:Sil10YR7/2～6/2 にぶい黄橙～灰黄褐色ｼﾙﾄ)

B2･C1から埴輪多(ヘラ描絵)

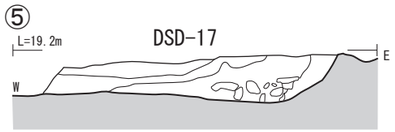
【CSD-3（２号墳）】
A:SiCl10YR2/1 黒色土,Sil10YR4/4 褐色ｼﾙﾄ 粉～粒 5-10% ～0.5cm大白色ﾚｷ多 30% P-多(埴輪) 硬 密
B:SiCl10YR2/1 黒色土,Sic～SiCl2.5Y5/2 暗灰黄色ｼﾙﾄ質埴土～土 粒 50-60% ～2cm大ﾚｷ中-多 中-硬 密
C:SiCl10YR2/1 黒色土,Sil～HC10YR7/3 にぶい黄橙色ｼﾙﾄ～粘土 粉-粒 15-20% 0.5～5cm大ﾚｷ多 中-硬 密
D:Sic～SL5Y6/2 灰ｵﾘｰﾌﾞ色ｼﾙﾄ質埴土～砂壌土 SiCl10YR2/1 黒色土 粒 10% ～0.1cm大白色ﾚｷ 15-20% 2～5cm大ﾚｷ多 硬 密

④

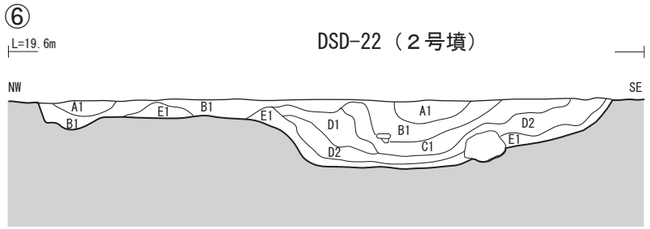


【CSD-1(D区)】
A1:Sil5Y5/2 灰ｵﾘｰﾌﾞ色ｼﾙﾄ,SiCl10YR3/1 黒褐色土 粒～10cm大 15% 1～3cm大ﾚｷ少-中
Sic10BG7/1 明青灰色ｼﾙﾄ質埴土 1～5cm大 5-7% 中-軟 中-密
A2:Sil5Y5/2 灰ｵﾘｰﾌﾞ色ｼﾙﾄ,SiCl10YR3/1 黒褐色土 粒～10cm大 20% 1～3cm大ﾚｷ中 10%
Sic5Y7/4 浅黄色ｼﾙﾄ質埴土 粒 10% 軟 中-密
B1:SiCl10YR3/1 黒褐色土,Sil～Sic10YR5/3 にぶい黄褐色ｼﾙﾄ～ｼﾙﾄ質埴土 粒-粗砂 20%
1～3cm大ﾚｷ 中 15% 中-軟 中-密
C1:HC10YR6/1 褐灰色粘土,HC10YR8/2 灰白色粘土 ～1cm厚層状 20%
Sil～HC10BG7/1 明青灰色ｼﾙﾄ～粘土 粒 20% 軟 中-密

⑤

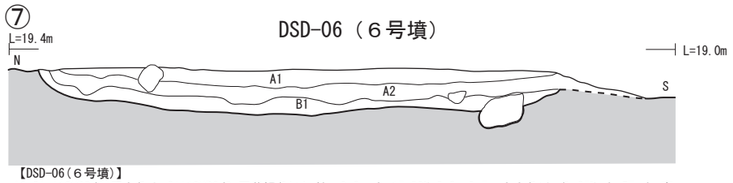


⑥



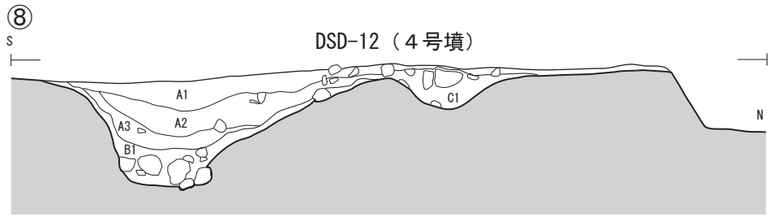
【DSD-22（２号墳）】
A1:Sil5GY5/1 ｵﾘｰﾌﾞ灰色ｼﾙﾄ,SiCl10YR4/2 灰黄褐色土 粒-層状 5-7% ～0.3cm大白色ﾚｷ 10% 中-硬 中-密
B1:SiCl10YR2/1 黒色土,Sic10YR5/2 灰黄褐色ｼﾙﾄ質埴土 粒-層状 ～3cm厚 0.1～0.4cm大白色ﾚｷ 15-20% P-少 硬 密
C1:SiCl10YR2/1 黒色土,Sil～HC10YR8/1 灰白色ｼﾙﾄ～粘土 粉-粒 40-50% ﾌﾞﾛｯｸ状
P-少-中(円筒･人物腕埴輪,ﾀﾀｷ須恵器)6C ～0.2cm大白色ﾚｷ 5-10% 中-硬 密
D1:SiCl10YR2/1 黒色土,Sil10YR6/2 灰黄褐色ｼﾙﾄ 粒 20% P-中 ～0.5cm大白色ﾚｷ 7% 中-硬 密
D2:SiCl10YR2/1 黒色土,Sil10YR6/2 灰黄褐色ｼﾙﾄ 粒 10% P-少-中 ～1cm大白色ﾚｷ 10-15% 中-軟 密
E1:Sic～HC10YR8/2 灰白色ｼﾙﾄ質埴土～粘土,SiCl10YR3/1 黒褐色土 粒 40% ～0.2cm大白色ﾚｷ 15-20% 硬 密 P-ﾅｼ

⑦



【DSD-06(６号墳)】
A1:SiCl10YR8/1 灰白色土,Sil10YR6/2 灰黄褐色ｼﾙﾄ 粒～0.2cm大 15-20% 0.2～0.5cm大白色ﾚｷ 多 25% 中-硬 中-密
A2:SiCl10YR2/1 黒色土,Sil10YR7/3 にぶい黄橙色ｼﾙﾄ 粒～0.2cm大 10% 0.2～0.5cm大白色ﾚｷ 貧-中 10% P-中 硬 密
B1:SiCl10YR2/1 黒色土,HC10YR8/1 灰白色粘土 粉～3cm大ﾌﾞﾛｯｸ 40-50% 0.2～0.5cm大白色ﾚｷ 中 15-20% 中-硬 中-密

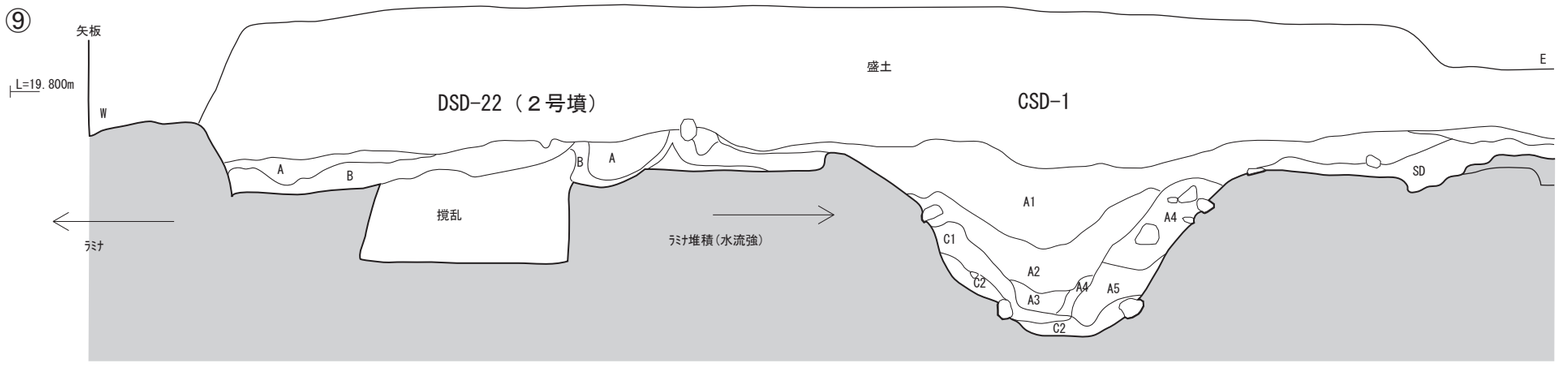
⑧



【DSD-12（４号墳）】
A1:SiCl10YR2/1 黒色土,Sil10YR4/3 にぶい黄褐色ｼﾙﾄ 粉 15-20% ～0.4cm大白色ﾚｷ 7-10% P-少 中-硬 中-密
A2:SiCl10YR2/1 黒色土,Sil10YR5/3～5/2 にぶ黄褐～灰黄褐色ｼﾙﾄ 粉-粒 10-15% 0.2～1cm大白色ﾚｷ 5-7% 埴輪-多 中-硬 中-密
A3:SiCl10YR2/1 黒色土,Sil10YR4/3 にぶい黄褐色ｼﾙﾄ 粒 10%
Sil10YR6/1 褐灰色ｼﾙﾄ 粒 10% ～1cm大ﾚｷ 3% P-少 ～5cm大ﾚｷ 3% 中-軟 中-疎
B1:SiCl10YR2/1～2/2 黒～黒褐色土,Sic5BG6/1 青灰色ｼﾙﾄ質埴土 粒～0.5cm大 30-40% ～1cm大ﾚｷ 15-20%
～5～10cm大ﾚｷ 10% 10～20cm大ﾚｷ 5-7% 中-硬 中-疎
Sil10YR8/1～8/2 灰白色ｼﾙﾄ 粉～0.5cm大ﾌﾞﾛｯｸ 20-25%
C1:SiCl10YR2/2 黒褐色土,Sil10YR4/2 灰黄褐色ｼﾙﾄ 粒 20% 5～20cm大ﾚｷ 40-50% 中-硬 中-密

D区北壁&遺構断面

⑨



【DSD-22（２号墳）】
A:Sil5G6/1 緑灰色ｼﾙﾄ,SiCl10YR5/2 灰黄褐色土 粒～層状 15-20% 硬 密
B:SiCl10YR2/1 黒色土,Sil10YR7/2 にぶい黄橙色ｼﾙﾄ 粉～層状 5-20% P-少 中-硬 密

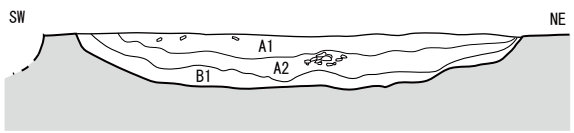
【CSD-1】
A3:Sil5BG6/1 青灰色ｼﾙﾄ,SiCl10YR3/1 黒褐色土 粉-粒 5-10% ～0.2cm大白色ﾚｷ少-中 中-軟 中-密
A4:Sil5Y5/2 灰ｵﾘｰﾌﾞ色ｼﾙﾄ,SiCl10YR3/1 黒褐色土 粒～15cm大ﾌﾞﾛｯｸ 30-40% 5～15cm大ﾚｷ多 35% 中-硬 中-疎
A5:Sil5T5/2 灰ｵﾘｰﾌﾞ色ｼﾙﾄ,SiCl10YR3/1 黒褐色土 粒～1cm大 5% 中-軟 中-疎
C2:SL10YR7/2 にぶい黄橙色砂壌土,SiCl10YR3/1 黒褐色土 粒 15-20% 軟 疎 5～20cm大ﾚｷ少

【SD】
SiCl10YR3/1 黒褐色土,Sil10YR5/3 にぶい黄褐色ｼﾙﾄ 粉～5cm大ﾌﾞﾛｯｸ 20-25% ～0.3cm大白色ﾚｷ少-中 中-硬 密
地山:Sil～HC10YR8/2 灰白色ｼﾙﾄ～粘土

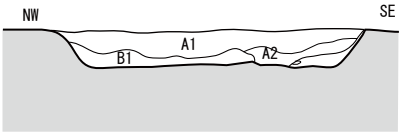
0 1:40 2m

図９　第２次調査区遺構断面図１

⑩ L=19.4m ESD-01（７号墳）



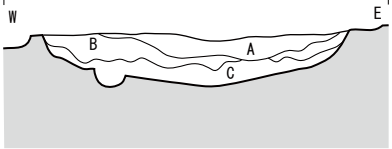
⑪ L=19.2m ESD-02（８号墳）



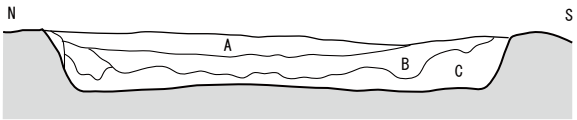
【ESD-01（７号墳）】
A1:Sicl10YR2/1 黒色土,Sil10YR5/2 灰黄褐色ｼﾙﾄ 粒 15%
～0.1mm大白色粒 5-7% P-少-中 中-軟 中-密
A2:Sicl10YR2/1 黒色土,Sil10YR5/2～4/2 灰黄褐色ｼﾙﾄ 粒～0.3大 20-25%
～0.2mm大白色粒 10% P-中-多 中-硬 中-密
B1:Sicl10YR1.7/1 黒色土,SicN7/0 灰白色ｼﾙﾄ質埴土 ～5cm大ﾌﾞﾛｯｸ 30-40% P-少
～0.3mm大白色粒 3% 中-硬 中-密

0 1:40 2m

⑫ L=19.1m ESK-04



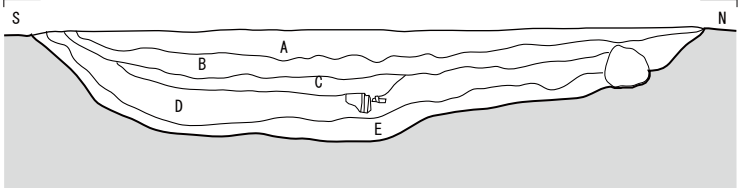
⑬ L=19.1m ESD-11（５号墳）



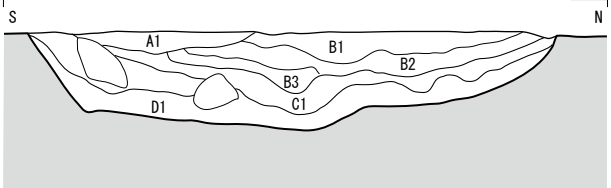
【ESK-04】
A:HC～Sil10YR8/1 灰白色粘土～ｼﾙﾄ ～5cm大ﾌﾞﾛｯｸ,
Sicl10YR3/1 黒褐色土 粒 20-25% 中-軟 密
B:Sicl10YR2/1～2/2 黒～黒褐色土,
Sil10YR6/2～6/3 灰黄褐～にぶい黄橙色ｼﾙﾄ 粉-粒 15% 中-軟 中-密
C:Sil～Sic10YR8/2 灰白色ｼﾙﾄ～ｼﾙﾄ質埴土 5～10cm大ﾌﾞﾛｯｸ,
Sicl10YR2/2 黒褐色土 粒 15-20% 中-軟 中-密

【ESD-11（５号墳）】
A:Sicl10YR1.7/1 黒色土,Sil10YR7/3 にぶい黄橙色ｼﾙﾄ 粉-層状 15-20% ～0.2cm大白色ﾚｷ 5-7%P-少
中-軟 中-密
B:Sicl～HC10YR2/1 黒色土～粘土,Sic10YR6/2 灰黄褐色ｼﾙﾄ質埴土 粒 10% ～0.3cm大白色ﾚｷ 7-10%
～3mm大ﾚｷ 5% P-少 中-硬 中-密
C:Sicl10YR2/1～2/2 黒～黒褐色土,HC～Sil10YR8/1～8/2 灰白色粘土～ｼﾙﾄ 粉 20-25%
～0.3cm大ﾚｷ 15-20% SL10YR6/3 にぶい黄橙色砂壌土 粒～0.2cm大 15% 中-硬 中-疎

⑭ L=19.5m ESD-13（１号墳）



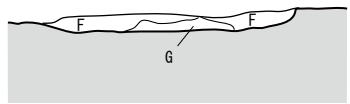
⑮ L=19.5m ESD-14（６号墳）



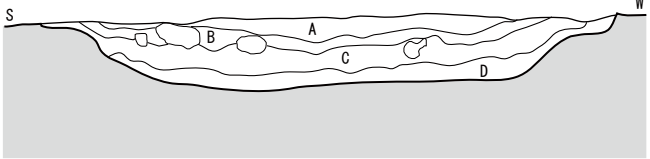
【ESD-13（１号墳）】
A:Sicl10YR3/2 黒褐色土,Sil10YR4/1 褐灰色ｼﾙﾄ 粒 20-25% ～0.5cm大白色ﾚｷ 25-30%
硬 密 P-微 ﾏﾝｶﾞﾝ
B:Sicl10YR3/1 黒褐色土,Sil10YR7/2 にぶい黄橙色ｼﾙﾄ 粉 15% ～0.2cm大白色ﾚｷ 5-10%
中-硬 中-密 P-少 ﾏﾝｶﾞﾝ
C:Sicl10YR3/1 黒褐色土,Sil10YR7/2 にぶい黄橙色ｼﾙﾄ 粉 5-7% ～0.2cm大白色ﾚｷ 15%
中-硬 中-密 P-中
D:Sicl10YR2/1 黒色土,Sil10YR7/2 にぶい黄橙色ｼﾙﾄ 粉～0.5cm大 15% ～0.5cm大白色ﾚｷ 15%
埴輪多 中-軟 中-密
E:HC10YR2/1 黒色粘土,Sil～Sic7.5Y8/2 灰白色ｼﾙﾄ～ｼﾙﾄ質埴土 粒 30% S砂土～0.5cm大ﾚｷ 20%
～3cm大ﾚｷ 10% 中-硬 中-密

【ESD-14（６号墳）】
A1:Sicl10YR2/1 黒色土,Sil10YR7/2 にぶい黄橙色ｼﾙﾄ 粉 5-10% ～0.1cm大
白色ﾚｷ微 1-3% 中-硬 密 ﾏﾝｶﾞﾝ中
B1:Sicl10YR2/1 黒色土,Sil10YR8/2 灰白色ｼﾙﾄ 粉 10% ～0.3cm大白色ﾚｷ 20%
硬 密 ﾏﾝｶﾞﾝ中
B2:Sicl10YR2/1 黒色土,Sil10YR8/2 灰白色ｼﾙﾄ 粉15-20% ～0.5cm大白色ﾚｷ 10-15%
硬 密 ﾏﾝｶﾞﾝ中
B3:Sicl10YR2/1 黒色土,Sil10YR8/2 灰白色ｼﾙﾄ 粉 25% ～0.2cm大白色ﾚｷ 10%
中-硬 密 ﾏﾝｶﾞﾝ中
C1:Sicl～HC10YR2/1 黒色土～粘土,Sil10YR6/2 灰黄褐色ｼﾙﾄ ～粒 20%
～0.2cm大白色ﾚｷ 5-10% 中-軟 中-密
D1:Sicl～Sil10YR2/1 黒色土～ｼﾙﾄ,Sil～Sic10YR7/2 にぶい黄橙色ｼﾙﾄ～ｼﾙﾄ質埴土
粒～1cm大 20% 0.3～1cm大ﾚｷ 40-50% 中-硬 中-密

⑯ L=19.5m ESD-15



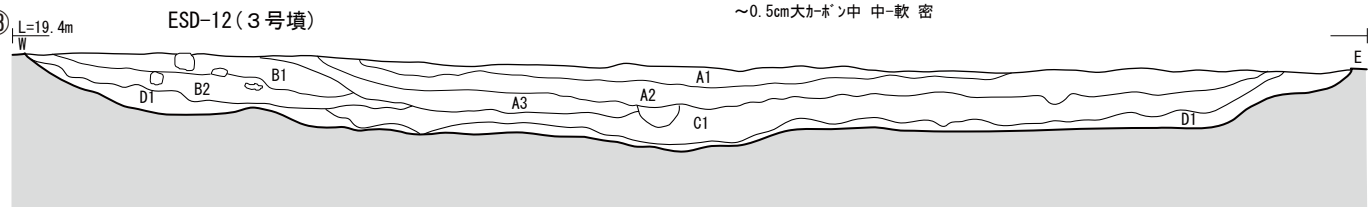
⑰ L=19.3m ESD-16（３号墳）



【ESD-15】
F:Sicl10YR2/1～2/2 黒～黒褐色土,
Sil10YR8/2～8/3 灰白～浅黄橙色ｼﾙﾄ 粉～0.5cm大 10-15%
～0.1cm大白色ﾚｷ 3-5% 中-硬 中-密
G:Sil10YR8/2 灰白色ｼﾙﾄ,
Sicl10YR2/1～2/2 黒～黒褐色土 粒～1cm大 20% 中-軟 中-密

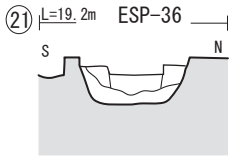
【ESD-16（３号墳）】
A:Sicl10YR2/1 黒色土,Sil10YR8/1 灰白色ｼﾙﾄ 粒～0.5cm大 7-10%
～0.1mm大白色粒 10% P-少-中 中-軟 密
B:Sicl10YR7/1 灰白色土,HC10YR8/1 灰白色粘土 ～3cm大ﾌﾞﾛｯｸ 20-25%
～0.1mm大白色粒 15% P-少 中-軟 密
C:Sicl10YR2/1 黒色土,Sic～Sil10YR7/2 にぶい黄橙色ｼﾙﾄ質埴土～ｼﾙﾄ 粒～0,2cm大
～0.2cm大ｶｰﾎﾞﾝ少 埴輪-多 須恵器ﾊｿｳ完形1 0.2～1cm大白色ﾚｷ少 中-軟 密
D:Sicl10YR2/1 黒色土,Sicl～Sil7.5GY8/1 明緑灰色土～ｼﾙﾄ 1～3cm大ﾌﾞﾛｯｸ 40-50%
～0.5cm大ｶｰﾎﾞﾝ中 中-軟 密

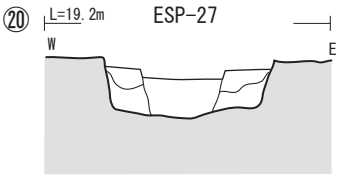
⑱ L=19.4m ESD-12（３号墳）

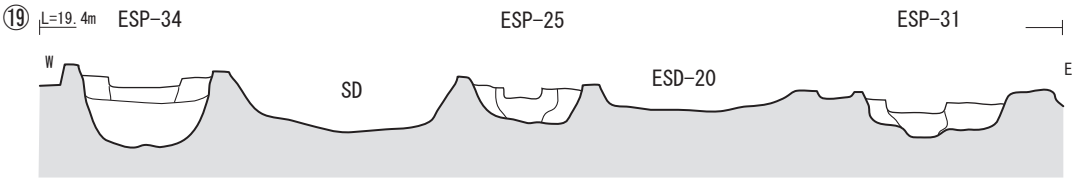


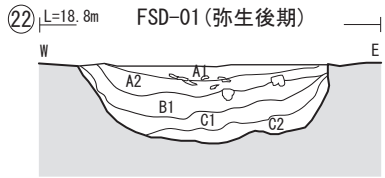
【ESD-12（３号墳）】
A1:Sicl10YR2/1～3/1 黒～黒褐色土,Sil～HC10YR8/1 灰白色ｼﾙﾄ～粘土 粒～1cm大 15-20% ～0.3cm大白色ﾚｷ 15% P-微 中-硬 密 ﾏﾝｶﾞﾝ少
A2:Sicl10YR2/1～3/1 黒～黒褐色土,Sil～HC10YR8/1 灰白色ｼﾙﾄ～粘土 粒～2cm大 20-30% ～0.3cm大白色ﾚｷ 7-10% P-少 中-硬 密 ﾏﾝｶﾞﾝ少-中
A3:Sicl10YR2/1～3/1 黒～黒褐色土,Sil～HC10YR8/1 灰白色ｼﾙﾄ～粘土 粒～5cm大 25% ～0.3cm大白色ﾚｷ 10-15% P-少 中-硬 密 ﾏﾝｶﾞﾝ少-中
B1:Sicl10YR2/2 黒褐色土,Sil10YR7/2 にぶい黄橙色ｼﾙﾄ 粉 25% ～0.1cm大白色ﾚｷ 15-20% 3～10cm大ﾚｷ少 P-少-中(埴輪) 中-硬 密 ﾏﾝｶﾞﾝ中 ～0.5cm大ｶｰﾎﾞﾝ少-中
B2:Sicl10YR2/2 黒褐色土,Sil10YR7/2 にぶい黄橙色ｼﾙﾄ 粉 15-20% ～0.1cm大白色ﾚｷ 10% 3～5cm大ﾚｷ少-中 P-少-中(埴輪) 中-軟 密 ﾏﾝｶﾞﾝ中 ～0.5cm大ｶｰﾎﾞﾝ少-中
C1:HC10YR2/1 黒色粘土,Sic10YR6/2 灰黄褐色ｼﾙﾄ質埴土 粒 5-7% ～0.2cm大白色ﾚｷ 5% ﾏﾝｶﾞﾝ少-中 ～1cm大ｶｰﾎﾞﾝ少 中-軟 密
D1:Sicl10YR2/1 黒色土,Sil10YR8/1 灰白色ｼﾙﾄ 粉～1cm大 30-40% 埴輪 ～0.3cmｶｰﾎﾞﾝ少 ～2cm大ﾚｷ15% 中-硬 密

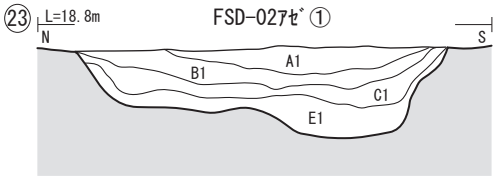
図 10　第２次調査区遺構断面図２

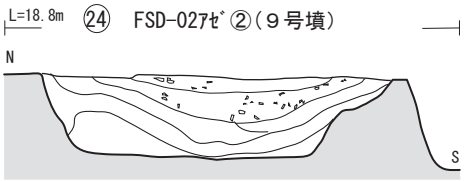






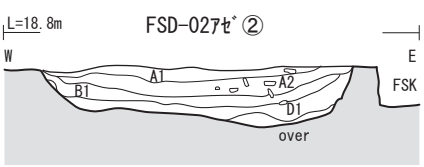




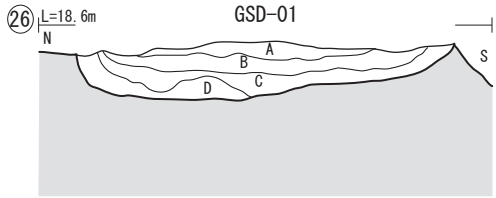


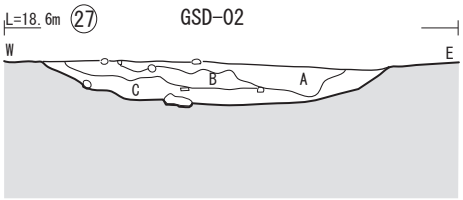
【FSD-01(弥生後期)】
A1:Sicl10YR3/1 黒褐色土,Sil10YR5/2 灰黄褐色ｼﾙﾄ
粉 25-30% P-多 ～0.3cm大ｶｰﾎﾞﾝ少 中-軟 中-密
A2:Sicl10YR3/1～2/1 黒褐～黒色土,
Sil10YR5/2 灰黄褐色ｼﾙﾄ 粉 15-20% P-中-多
～0.5cm大ｶｰﾎﾞﾝ中 中-軟 中-密
B1:Sicl10YR2/1 黒色土,
Sil10YR5/2～5/3 灰黄褐～にぶい黄褐色ｼﾙﾄ
粒～0.3cm大 25%
Sil～HC10YR8/2 灰白色ｼﾙﾄ～粘土 粒～ﾌﾞﾛｯｸ 10%
P-少 ～0.5cm大ｶｰﾎﾞﾝ少 中-軟 中-密
C1:Sicl10YR2/1 黒色土,
Sil～HC10YR8/1orN7/0 灰白色ｼﾙﾄ ～3cm大ﾌﾞﾛｯｸ
25-30% ～0.2cm大ｶｰﾎﾞﾝ中 中-軟 中-密
C2:Sicl10YR2/1 黒色土,
Sil～HC10YR8/1orN7/0 灰白色ｼﾙﾄ～粘土
～3cm大ﾌﾞﾛｯｸ 25% ～0.5cm大ｶｰﾎﾞﾝ中 中-軟 中-密

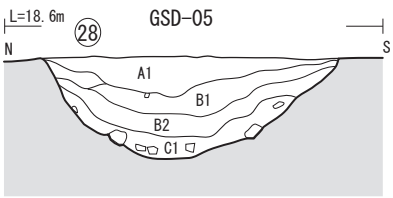
【FSD-02ｱｾﾞ②(古墳)】
A1:Sicl10YR2/1 黒色土,Sil10YR7/3 にぶい黄橙色ｼﾙﾄ 粒～0.3cm大 15-20% ～0.2cm大白色ﾚｷ 5% P-中-多 軟 中-疎
A2:HC10YR2/1 黒色粘土,Sil10YR5/4 にぶい黄褐色ｼﾙﾄ 粒 30% ～0.2cm大白色ﾚｷ 1-2% P-多 中-軟 中-疎
A3:HC10YR2/1 黒色粘土,Sil10YR5/4 にぶい黄褐色ｼﾙﾄ 粒 ～15% ～0.2cm大白色ﾚｷ 5-10% P-少 軟 疎
B1:HC～Sicl10YR3/2 黒褐色粘土～土,Sic10YR4/2 灰黄褐色ｼﾙﾄ質埴土 粒～0.1cm大 20-25% ～0.2cm大白色ﾚｷ 5% 中-軟 中-密
C1:Sicl10YR2/2 黒褐色土,Sil～2.5GY7/1 明ｵﾘｰﾌﾞ灰色ｼﾙﾄ 粒 20% S～Sic砂土～ｼﾙﾄ質埴土 1～3mm大灰白色ﾚｷ 30% 中-軟 中-疎 P-少



【FSD-02】
D1:Sicl10YR2/1～2/2 黒～黒褐色土,
Sil10YR8/2 灰白色ｼﾙﾄ 粒～3cm大ﾌﾞﾛｯｸ 50-60%
P-少 中-硬中-密
E1:Sicl10YR2/2 黒褐色土,
SL10YR6/3 にぶい黄褐色砂壌土 粒～2mm大粗砂 60-70%
軟 疎



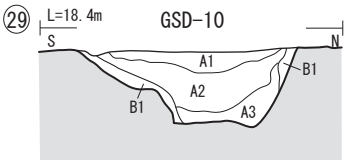


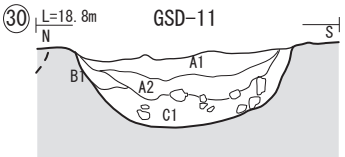


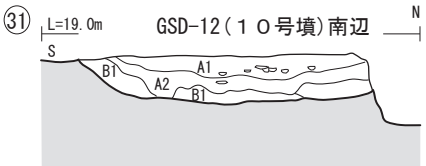
【GSD-01】
A:Sicl10YR2/2 黒褐色土,Sil10YR5/3 にぶい黄褐色ｼﾙﾄ 粒 20-25%
～1cm大白色ﾚｷ 25% P-少 硬 密
B:Sicl10YR2/1 黒褐色土,Sil10YR4/3 にぶい黄褐色ｼﾙﾄ 粒 5-10%
～0.3cm大白色ﾚｷ 3-5% P-中 中-軟 中-密
C:Sicl10YR2/2 黒褐色土,HC10YR8/2
灰白色粘土 HC5Y8/4 淡黄色粘土 0.5～5cm大ﾌﾞﾛｯｸ 40-50% P-少
～0.3cm大白色ﾚｷ 5-7% 中-硬 密
D:S-SL10YR4/2 灰黄褐色砂土・砂壌土,～0.2cm大粗砂 60-70%
S～0.1cm以下10YR7/2 にぶい黄橙色砂土 20-30% 軟 疎

【GSD-02】
A:Sicl10YR2/1～3/1 黒～黒褐色土,
Sil10YR7/4 にぶい黄橙色ｼﾙﾄ 粒 30-40%
Sic5BG7/1 明青灰色ｼﾙﾄ質埴土 粒～1cm大ﾌﾞﾛｯｸ 30%
中-硬 中-疎
B:Sicl10YR2/1～3/1 黒～黒褐色土,
Sil10YR7/8 黄橙色ｼﾙﾄ 粒～5cm大ﾌﾞﾛｯｸ 30-40% 中-軟 中-密
C:Sic～SL10YR5/2 灰黄褐色ｼﾙﾄ質埴土～砂壌土 ～0.5cm大ﾚｷ 20%
HC10YR8/8 黄橙色粘土 粒～ﾌﾞﾛｯｸ 30-40% 中-軟 中-疎

【GSD-05】
A1:Sicl10YR3/1 黒褐色土,
Sil10YR4/2～4/3 灰黄褐～にぶい黄褐色ｼﾙﾄ 粒
20-25% ～0.3cm大白色ﾚｷ 20% P-少 中-硬 中-密
B1:Sicl10YR2/1 黒色土,
Sil10YR5/2 灰黄褐色ｼﾙﾄ 粒～0.2cm大 30%
～0.3cm大白色ﾚｷ 5-7% P-少 中-軟 中-密
B2:Sicl10YR2/1 黒色土,
Sil10YR6/4 にぶい黄橙色ｼﾙﾄ 粒～0.3cm大 15-20%
～0.5cm大白色ﾚｷ 5% 中-軟 中-密
C1:HC10YR2/1 黒色粘土,
Sil10YR7/2 にぶい黄橙色ｼﾙﾄ 粒～0.3cm大 25-30%
～0.1cm大白色ﾚｷ 3% 5～10cm大ﾚｷ 25% 軟 中-密







【GSD-10】
A1:Sicl10YR2/1 黒色土,Sil10YR4/3 にぶい黄褐色ｼﾙﾄ
粒 25-30% ～0.1cm大白色ﾚｷ 10% 中-硬 中-密
A2:Sicl10YR2/1 黒色土,Sil10YR5/4 にぶい黄褐色ｼﾙﾄ
粒 20% ～0.1cm大白色ﾚｷ 5-7% 中-軟 中-密
A3:Sicl10YR2/1 黒色土,Sil10YR5/4 にぶい黄褐色ｼﾙﾄ
粉-粒 10% ～0.1cm大白色ﾚｷ ～3% 中-軟 中-密
B1:Sicl10YR3/1 黒褐色土,
Sil～Sic10YR7/2 にぶい黄橙色ｼﾙﾄ～ｼﾙﾄ質埴土
粒～細砂 40-50% ～0.1cm大白色ﾚｷ ～3% 中-軟 密

【GSD-11(古墳-方墳主体部)】
A1:Sicl10YR2/1 黒色土,Sil10YR4/2 灰黄褐色ｼﾙﾄ
粉-粒 20% 中-軟 中-密
A2:Sicl10YR2/1 黒色土,Sil10YR4/2 灰黄褐色ｼﾙﾄ
粉-粒 10% 中-硬 中-密
B1:Sicl10YR3/1 黒褐色土,Sil10YR6/2 灰黄褐色ｼﾙﾄ
粉-粒 30-40% ～0.2cm大白色ﾚｷ 5% 中-軟 中-密
C1:Sicl10YR3/1 黒褐色土,
Sil5BG6/1 青灰色ｼﾙﾄ 0.5～1cm大ﾌﾞﾛｯｸ 20% 5cm大ﾚｷ
30-40% 中-硬 中-疎

【GSD-12(7号墳)南辺】
A1:Sicl10YR2/1 黒色土,Sil10YR4/2 灰黄褐色ｼﾙﾄ
粒～0.2cm大 20% Sil7.5GY7/1 明緑灰色ｼﾙﾄ
～1cm大 5-7% 埴輪中-多 中-軟 密
A2:Sicl10YR2/1 黒色土,Sil10YR4/2 灰黄褐色ｼﾙﾄ
粒～0.2cm大 10% Sil7.5GY7/1 明緑灰色ｼﾙﾄ
～1cm大 3% 埴輪少 中-軟 密
B1:Sicl10YR2/1～3/1 黒～黒褐色土,
Sil7.5GY7/1 明緑灰色ｼﾙﾄ 1～2cm大ﾌﾞﾛｯｸ 40-50%
～0.2cm大白色ﾚｷ少-中 5-7% 中-硬 中-密

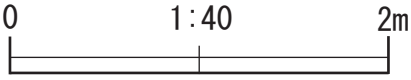


図 11　第２次調査区遺構断面図３

3）基本層序（図５・7）

地形的に北から南に向かって緩やかに傾斜するため、南側の調査区では遺物包含層等が厚く堆積する傾向が見られる。上から順に、第Ⅰ層（盛土層）はＡ・Ｂ区では層厚 130 ～ 150㎝、Ｃ区で層厚 20 ～ 70㎝、第１次調査区では層厚 60 ～ 90㎝を測る。第Ⅱ・Ⅲ層（旧耕土１～４・床土）はＡ・Ｂ区では層厚 15 ～ 30㎝、Ｃ区で層厚 50 ～ 65㎝を測る。
第Ⅳ層～第Ⅵ層は遺物包含層で、第Ⅳ層（平安時代中期～後期遺物包含層）は黒褐色～暗褐色土で層厚 10 ～ 20㎝を測る。第Ⅴ層（平安時代中期）は黒色土でにぶい黄橙色シルトと遺物を僅かに含む。第１次調査区では層厚 30㎝、Ａ～Ｃ区で層厚 10 ～ 20㎝を測る。第Ⅵ層（平安時代前期）は第Ⅴ層同様に黒色土でにぶい黄橙色シルトブロックをやや多く含み、遺物を僅かに含む。層厚は第１次調査区では 20㎝、Ａ・Ｂ区では 40㎝の層厚があり、さらに３層に細分される。Ｃ区では層厚 10 ～ 15㎝を測る。第Ⅶ層（地山）は明緑灰色シルト～灰白色シルト又は粘土である。

4）第１次発掘調査（図５）

第１次調査区では、現地表面下 0.6 ～ 0.8 m（標高 19.2 ～ 19.4 m）の第１面で、中世の耕作溝を検出した。瓦器椀等の出土遺物から鎌倉時代頃と推察される。直下の 0.4 ～ 0.5 mほどの遺物包含層（Ⅳ～Ⅵ層）下で、第２面の遺構を検出した。（標高 18.9 ～ 19.3 m）遺構は調査区西端で柱穴や溝、隣接して東側は、南北に延びる 10 ～ 40㎝大の石を多量に敷き詰めた石敷遺構（SF-01）を検出した。石敷遺構（SF-01）は幅５～６ｍで、全長は 12.0 m以上、ほぼ座標北に沿って延びる。そのまま北に進むと太田茶臼山古墳（継体天皇陵）の南西端手前で旧山陽道（西国街道）に交わる。検出状況時においては、遺物包含層又は大溝とみえたが、埋土を掘削していくと調査区東端では、溝の片側ラインと緩やかな壁・底面があらわれた。また、調査区中央付近を掘り進めると石が集中してみられるようになった。埋土はＡ～Ｃ層の３層で、Ａ層は黒色シルト～粘土で部分的に多量の礫を含む。層厚は厚いところで 50㎝ほどで遺物を伴う。Ｂ層は黄褐色土に灰白色シルトの小ブロックをやや多く含みしまりがよい。層厚は 20㎝ほどで東側に偏ってみられる。Ｃ層は褐灰色土で明黄褐色シルトと礫を含む。層厚は厚いところで 30㎝ほど、Ｂ層同様、遺構の東側部分にのみ堆積する。

調査区西側部分には地業したとみられるラインは確認できるが、壁の立ち上がりは見られず段丘崖に面する東側のみに壁ができる。掘り込みの底面は皿状でほぼ平らで、幅は 14.5 ～ 16.2 mを測るが、石敷が東の壁から８～９ｍと西の地業ラインに偏っている。

出土遺物は、Ａ層から磨製石斧や埴輪、古代平瓦などが混入するが、須恵器甕、高台付坏身や黒色土器Ａ類坏、土師皿、などの奈良時代後半～平安時代前期の遺物を伴うことから、その頃に整地された可能性が高いと思われる。

5）第２次発掘調査（図６～ 22）

第２次調査区は７つの調査区に分かれており、Ａ・Ｂ区は独立した調査区、Ｃ～Ｇ区は南北に 120 m、東西に 80 mの範囲にまとまった調査区である。第１面は、北端にあるＣ区が標高 19.9 m、南端のＧ区が標高 18.8 mで、中世の耕作溝を中心とした遺構と直径 0，1 ～ 0.2 m程度の小規模な柱穴を検出した。同様にＡ区は標高 18.8 m、Ｂ区は標高 18.4 mで第１面

の遺構を検出した。

第２面は、弥生時代後期の竪穴・土坑・溝・柱穴などの集落遺構が検出され、CSK － 01 から弥生時代後期の壺が出土し、CSK － 02 からも同時期とみられる土器が出土した。調査区全体でみると遺物の出土はそれほど多くなかった。古墳時代では中期の円墳５基・方墳７基が新たに発見された。調査区は、工場の東西南北の地中梁により分断されてはいたが、12 基の古墳を復元することができた。古代（飛鳥･奈良時代～平安時代）は､調査区を南北に貫く溝（CSD － 01）や柱穴を確認した。弥生時代から古代の遺構は、いずれも第２面で検出しており、一つの遺構面で３つの時代の遺構を調査した。Ｃ区の調査区断面ではＶ層面で柱穴が確認できるため遺構面が３面以上あったことがわかる。しかし、Ｖ層は黒色土ベースで、遺構埋土も黒色土であるため、遺構を正確に判断することは容易でないことから地山面で第２面の検出を行った。

12 基の古墳の遺構と遺物の概略について、以下に記載する。すべての古墳は、墳丘および埋葬施設が削平されており、周溝のみが確認されたもので埋土から埴輪が出土したものを掲載した。（5 号墳を除く）また、石材の出土がないことから木棺直葬であったと推察される。

１号墳は円墳で､Ｃ区で全体の２分の１東半分を検出した｡墳丘規模は直径 14.6 m､周溝幅 3.0 ～ 3.9 m、周溝の深さ 0.3 ～ 0.6 mを測る。埋土は、黒色～黒褐色土で底面付近で埴輪が多く出土した。断面形は逆台形～皿状で、壁は緩やかに立ち上がる。周溝は２・３号墳と共有する。切合関係は CSD － 01 に切られる。出土遺物は、１号墳の CSD － 02 から大量の埴輪片が出土した。その大半が埴輪円筒埴輪片であるが、完形に復元できた円筒埴輪は４突帯５段で３段目に円形スカシを穿孔する。時期は川西編年Ⅳ期に相当する。形象埴輪では人物・動物・鶏・家形・盾などがあり埴輪や須恵器から５世紀後半に位置づけられる。

２号墳は円墳で、Ｃ区で全体の４分の１西半部を検出した。墳丘規模は直径 11 m以上、（推定 15 m）、周溝幅 2.2 ～ 4.4 m、周溝の深さ 0.5 mを測る。埋土は、黒色～黒褐色土で底面付近で埴輪が多く出土した。断面形は皿状で壁は緩やかに立ち上がる。周溝は１号墳と共有する。切合関係は CSD － 01 に切られる。出土遺物は、DSD － 22 から須恵器や埴輪の出土が多く須恵器には杯身・杯蓋・壺・平瓶・器台などがあり、時期は５世紀後半のものが大半である。円筒埴輪は４突帯５段で３段目に円形スカシのものが大半だが、一部４段目にスカシがあり、時期は川西編年Ⅳ期に相当する。形象埴輪は鶏・動物・人物・家・馬などがあり、埴輪や須恵器から５世紀後半に位置づけられる。

３号墳は円墳で、Ｅ区で全体の３分の２南半部を検出した。墳丘規模は直径 14.0 m、周溝幅 2.4 m以上で、周溝の深さ 0.3 ～ 0.4 mを測る。埋土は、黒色土でＣ層から完形のハソウが出土し、断面形は逆台形で、壁は緩やかに立ち上がる。周溝の共有は１号墳と共有するが、幅７mにも及ぶ６号墳の溝との関係は、断面観察によれば６号墳の溝を吸収しているとみられる。出土遺物は、ESD － 12 から底部径が楕円形になる埴輪片が出土している。この埴輪片は色調が他の埴輪とは異なり茶褐色を呈し、胎土も細かい砂粒を含むが密であり、調整もタテハケのみであることなどから形象埴輪の底部の可能性も考えられる。円筒埴輪の時期は、おおむね川西編年Ⅳ期に相当し、ESD － 16 からやや時代が下るハソウが出土しているが、５世紀後半に位置づけられる。

４号墳は、Ｄ区で全体の５分の２を検出した。墳丘規模は直径 12.0 m、周溝幅 2.4 ～ 3.3 m、周溝の深さ 0.7 mを測る。埋土は、黒色土で A2 層から埴輪が多く出土した。断面形は深

い逆台形で壁は墳丘側が角度をもって立ち上がる。また、推定では７号墳の周溝と重複するが、周溝の共有および切合関係は不明である。出土遺物は、円筒埴輪や須恵器のほかに形象埴輪の鶏の頭部～頸部が出土した。

５号墳は、Ｆ区北側で全体の４分の１西半分を検出した。墳丘規模は直径 13 m以上、周溝幅 2.5 ～ 3.0 m、周溝の深さ 0.3 mを測る。埋土は黒色土、断面形は逆台形で、周溝の共有はない。切合関係は FSD － 01 を切る。出土遺物はない。

６号墳は方墳で、Ｃ区で全体の２分の１東半分を検出した。墳丘規模は一辺が 9.0 m、主軸方向はＮ 10°Ｅ、周溝幅 2.8 ～ 3.8 m、周溝の深さ 0.3 ～ 0.5 mを測る。埋土は黒色土、断面形は逆台形で、壁は墳丘側がやや急に立ち上がる。周溝は東側の一部を３号墳に取り込まれている。出土遺物は ESD － 14 からほぼ完形の須恵器の壺が出土したほか、ESD － 02 から円筒埴輪・形象埴輪、須恵器が出土した。

７号墳はＥ区で全体の６分の１北半部を検出した。墳丘規模は一辺が推定 9.5 m以上、主軸方向はＮ 11°Ｅ、周溝幅 1.7 ～ 2.4 m、周溝の深さ 0.3 mを測る。埋土は黒色色、 断面形は皿状で壁は緩やかに立ち上がる。推定では４号墳の周溝と重複するが、周溝の共有および切合関係は不明である。出土遺物は円筒埴輪や須恵器が出土した。

８号墳はＥ区中央で全体の６分の１北半部を検出した。墳丘規模は一辺が推定８m以上、主軸方向はＮ 21°Ｗ、周溝幅 1.6 ～ 1.9 m、周溝の深さ 0.2 mを測る。埋土は黒色土、断面形は逆台形で、壁は緩やかに立ち上がる。周溝の共有はない。出土遺物は円筒埴輪・形象埴輪のほかに、須恵器ハソウや坏蓋が出土した。

９号墳はＦ区南側で全体の６分の１西半部を検出した。墳丘規模は一辺が 11.5 m、主軸方向はＮ４°Ｅ、周溝幅 1.4 ～ 2.0 m、周溝の深さ 0.3 ～ 0.5 mを測る。埋土は黒色～黒褐色土、断面形は逆台形で、壁はやや急に立ち上がる。周溝の共有はない。出土遺物は FSD － 02 を中心に須恵器や埴輪といった遺物が出土した。須恵器は５世紀後半に相当し、円筒埴輪もタガの形状が三角形に近い形状を呈するようになるが川西編年Ⅳ期におさまるものである。

10 号墳はＧ区北東部で全体の６分の１南半部を検出した。墳丘規模は一辺が７m以上、主軸方向は不明、周溝幅 1.0 ～ 1.5 m、周溝の深さ 0.25 mを測る。埋土は黒色土、 断面形は皿状で壁は緩やかに立ち上がる。周溝の共有はない。出土遺物は、GSD － 12 から須恵器や円筒埴輪が出土し、須恵器には６世後半に属するものと７世紀前半に属するものがあり、この溝の埋没時期を示していると考えられる。埴輪はおおむね川西編年Ⅳ期に属する。

11 号墳はＧ区北東部で全体の３分の２を検出した。墳丘規模は一辺が 6.5 m以上、主軸方向はＮ４°Ｅ、周溝幅 1.7 ～ 4.0 m、周溝の深さ 0.2 ～ 0.3 mを測る。埋土は黒褐色土で底面やや上から埴輪が多く出土し、 断面形は皿状で壁は緩やかに立ち上がる。周溝の共有はない。出土遺物は GSD － 14 から朝顔形埴輪、GSD － 13 から須恵器壺、GSD － 17 から須恵器坏身が出土した。埴輪はおおむね川西編年Ⅳ期に属する。

12 号墳はＥ区北東で全体の４分の１南西部を検出した。墳丘規模は一辺が推定 9.4 m、主軸方向はＮ 16°Ｗ、周溝幅 1.6 ～ 1.8 m、周溝の深さ 0.3 ～ 0.5 mを測る。埋土は黒色～黒褐色土、断面形は逆台形で、壁はやや急に立ち上がる。周溝の共有はない。出土遺物は円筒埴輪のほか、須恵器壺・坏身・ハソウが出土した。

その他に、調査区を南北に貫く溝（CSD － 01）は、全長 120m 以上、幅 2.6 ～ 3.5 m、深さは 1.0 ～ 1.3 m、主軸はＮ４°Ｗを測る。溝の断面形は逆三角形～Ｕ字形で、埋土は灰オリー

ブ色シルトに黒褐色土や灰白色粘土ブロックなどがまざる。底面の高さはＣ区で標高 18.1 m で、緩やかな勾配で南側に向かっている。出土遺物は、古墳を破壊しながら延びているため、埴輪や須恵器の出土が多くみられる。また、他に瓦や羽釜の把手、すり鉢などもわずかにみられるが、全体的に時期の決め手になる遺物に乏しい。

６）まとめ

太田遺跡には従来から弥生時代の集落が広がっていることがわかっていたが、今回の調査でそのことがあらためて確認された。しかし、それ以上に弥生時代の集落のうえに古墳時代中期の円墳５基・方墳７基が築造されていたことが大きな発見であった。未発見の古墳は、周囲に相当数広がっていると考えられる。また、古墳の編年的位置付けにおいては、新修茨木市史第７巻史料編（考古）には、「埴輪はいずれも窖窯焼成によるもので、円筒埴輪編年Ⅳ期に位置付けられるが、黒斑が付着するものが一定量含まれる。円筒埴輪は外面調整にヨコハケを施し、段間を等間隔に割り付ける丁寧な作りであるが、最上段は他の段の間隔よりも間延びしたものが多い。埴輪の特徴および須恵器から、方墳がわずかに先行して５世紀中頃に築かれ、続いて円墳がやや遅れて５世紀後半に築かれたものと理解できる。〈中略〉先行する方墳群の築造は、北 200 mに位置する太田茶臼山古墳（継体天皇陵）の造営時期と重なるため、総持寺古墳群（総持寺遺跡）と同様に太田茶臼山古墳の被葬者を支えた地域の集団墓として把握できる〈中略〉群集墳の成立過程を考える上で極めて重要といえる。」とある。これに付して、先行する方墳は基本的には周溝は他の古墳と共有しておらず、また墳丘規模も 10 m未満で、主軸が東寄りの６・７・９号墳、西寄りの８・12 号墳、正方位に近い 10・11 号墳の３つに大きくわけることができる。後出の円墳については、墳丘規模が一回り大きくなり、直径 15 m未満で、円墳同士で周溝を共有するが方墳とは共有していないケースが多いことから意識した造墓がうかがわれる。

また、第２次調査区西端部では古墳をはじめとする遺構が流水により流された状況が調査でうかがえ、遺跡西側を流れる安威川によるものと想定され、その後の土地利用に影響した可能性があると考えている。古代（奈良時代後半～平安時代前期）と推定される南北に延びる幅５～６ｍの石敷遺構（SF － 01）が、遺跡東側で見つかった。東の段丘崖上には太田廃寺跡、北には太田茶臼山古墳や今城塚古墳の前を通る西国街道があり、南をみれば総持寺・総持寺北遺跡の古代建物群が近接することから、用途ははっきりしないが、地業されていることから、道路遺構ではないかと考える。さらに調査区を南北に貫く大溝（CSD － 01）は、第１面の検出時に確認されていないことから、鎌倉以前の奈良時代から平安時代の頃と思われ、五社井堰との関連もあると推測される。

以上のことから、今回の調査は古墳をはじめ、古代の太田にとってたいへん貴重で価値のある発見の多い調査であった。

参考文献

平成 26 年３月「新修茨木市史　第７巻　史料編　考古」茨木市

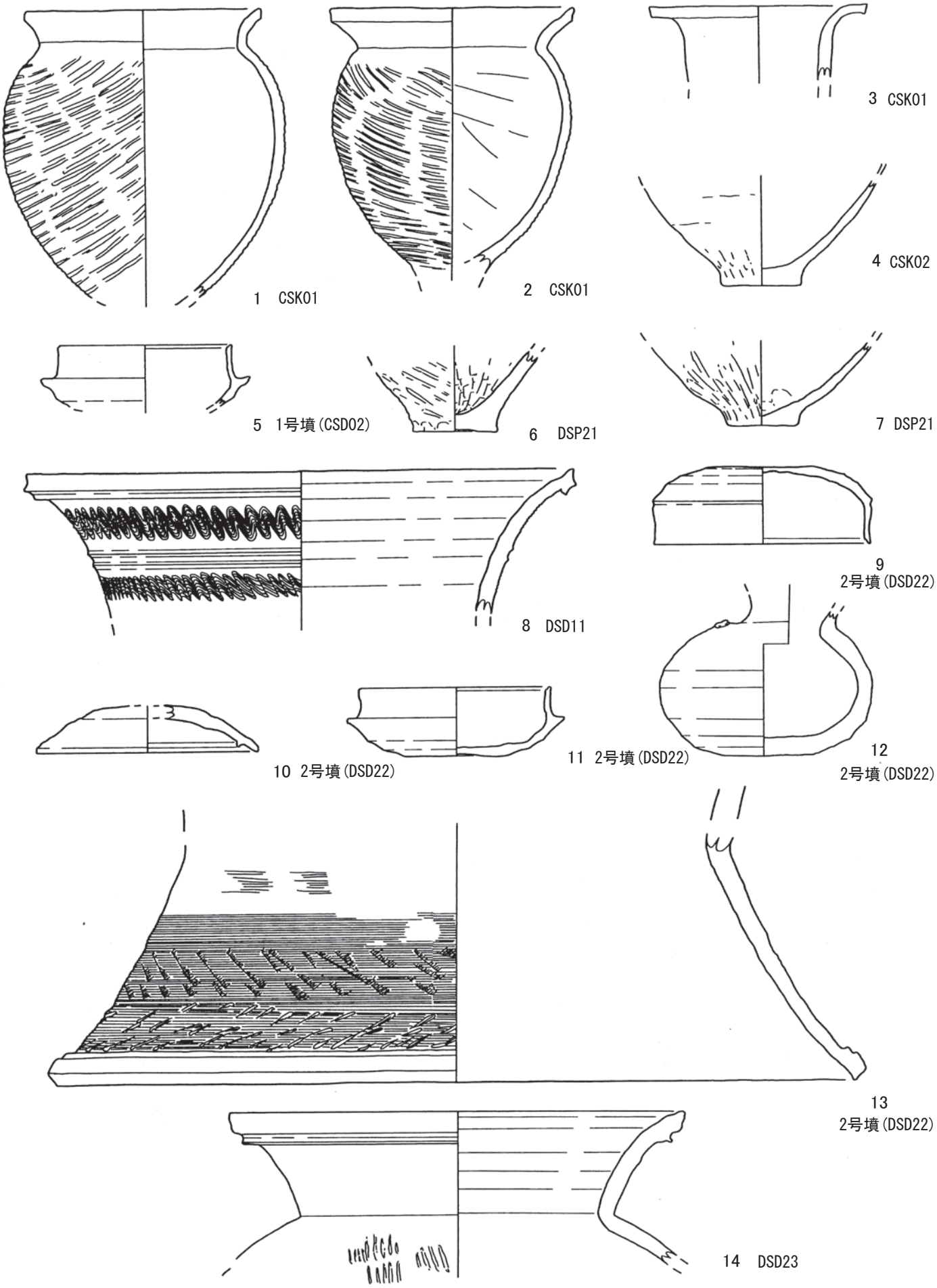

1 CSK01
2 CSK01
3 CSK01
4 CSK02
5 1号墳(CSD02)
6 DSP21
7 DSP21
8 DSD11
9
2号墳(DSD22)
10 2号墳(DSD22)
11 2号墳(DSD22)
12
2号墳(DSD22)
13
2号墳(DSD22)
14 DSD23
0
5
10cm

図12　出土遺物1

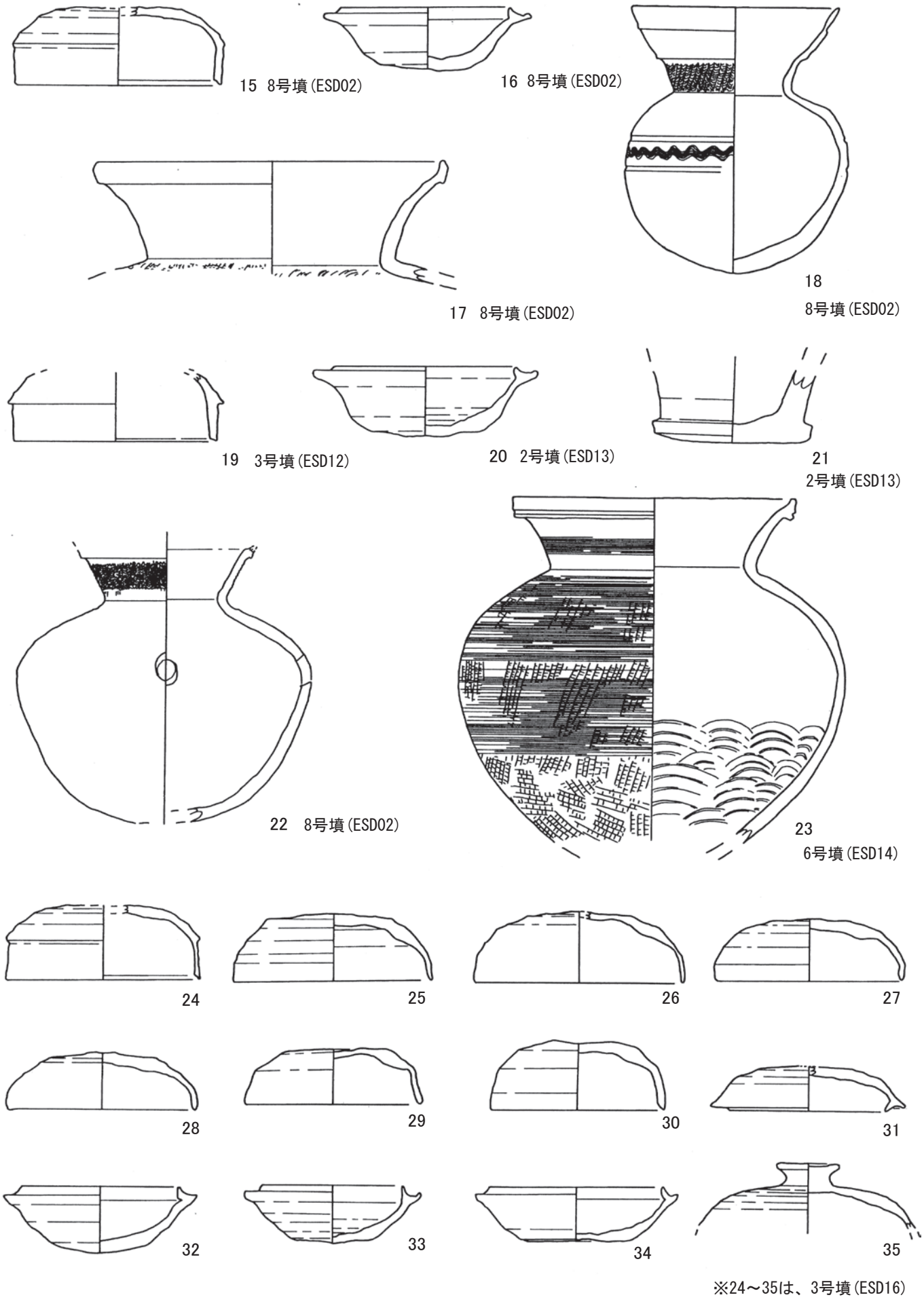
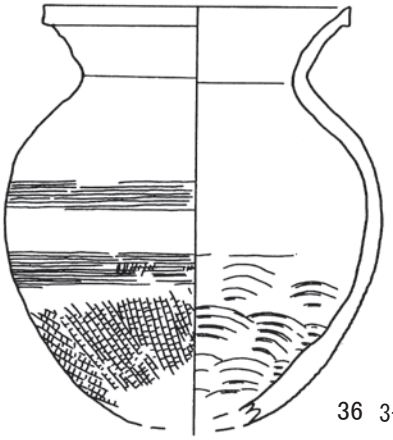
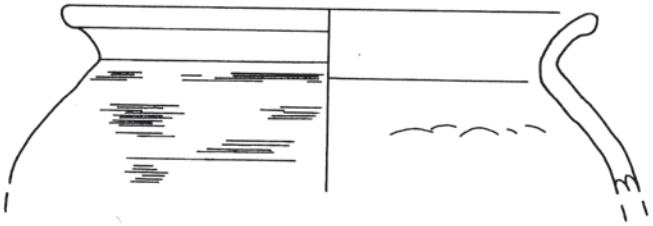

15 8号墳(ESD02)
16 8号墳(ESD02)
17 8号墳(ESD02)
18
8号墳(ESD02)
19 3号墳(ESD12)
20 2号墳(ESD13)
21
2号墳(ESD13)
22 8号墳(ESD02)
23
6号墳(ESD14)
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
※24～35は、3号墳(ESD16)
0
5
10cm

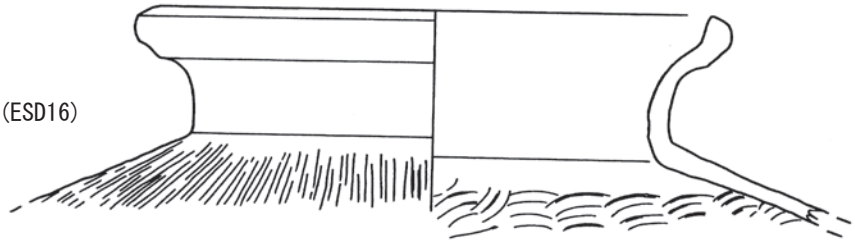
図 13　出土遺物 2



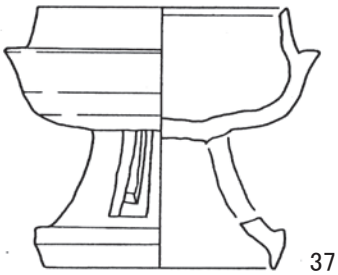
36 3号墳(ESD16)



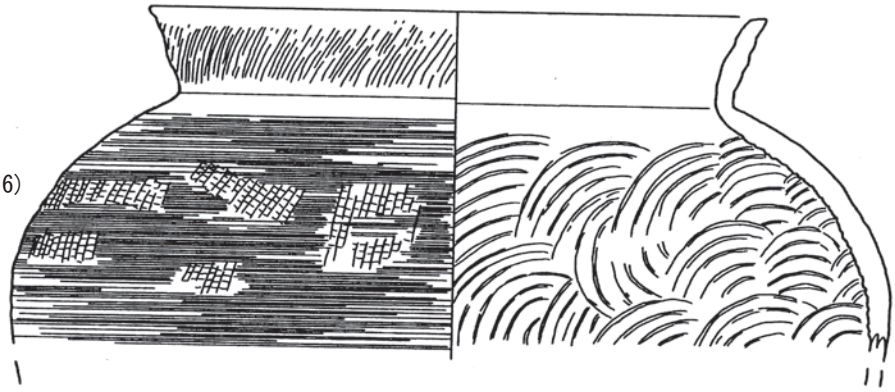
39
3号墳(ESD16)



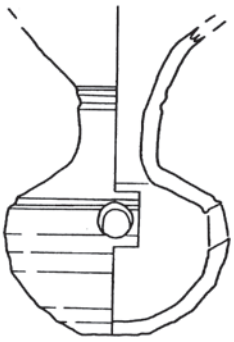
40
3号墳(ESD16)



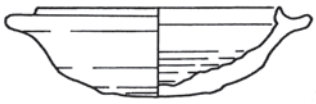
37
3号墳(ESD16)



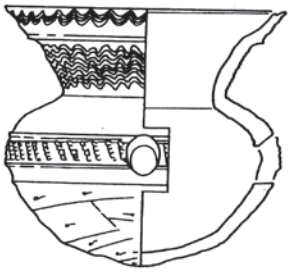
41
3号墳(ESD16)



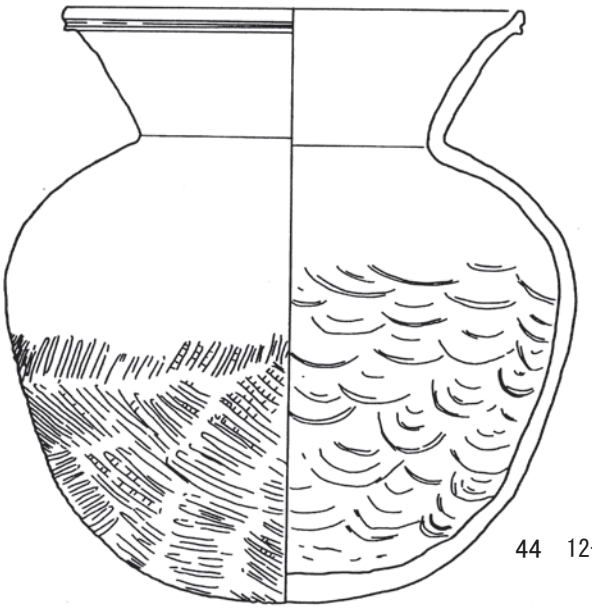
38 3号墳(ESD16)



42 12号墳(ESD17)



43 12号墳(ESD17)



44 12号墳(ESD17)

0 5 10cm

図14 出土遺物3

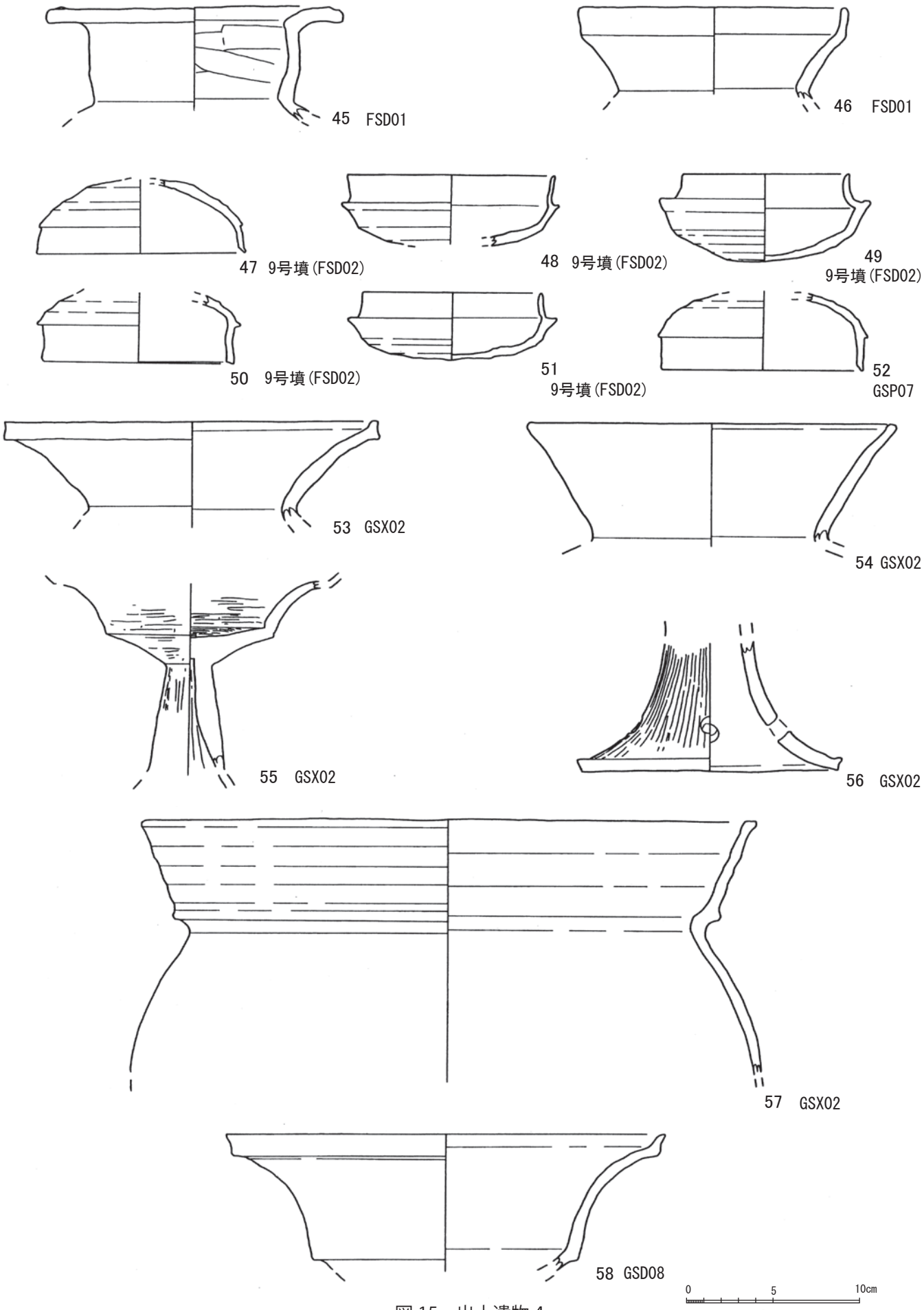

45 FSD01
46 FSD01
47 9号墳(FSD02)
48 9号墳(FSD02)
49
9号墳(FSD02)
50 9号墳(FSD02)
51
9号墳(FSD02)
52
GSP07
53 GSX02
54 GSX02
55 GSX02
56 GSX02
57 GSX02
58 GSD08
0
5
10cm

図 15　出土遺物４

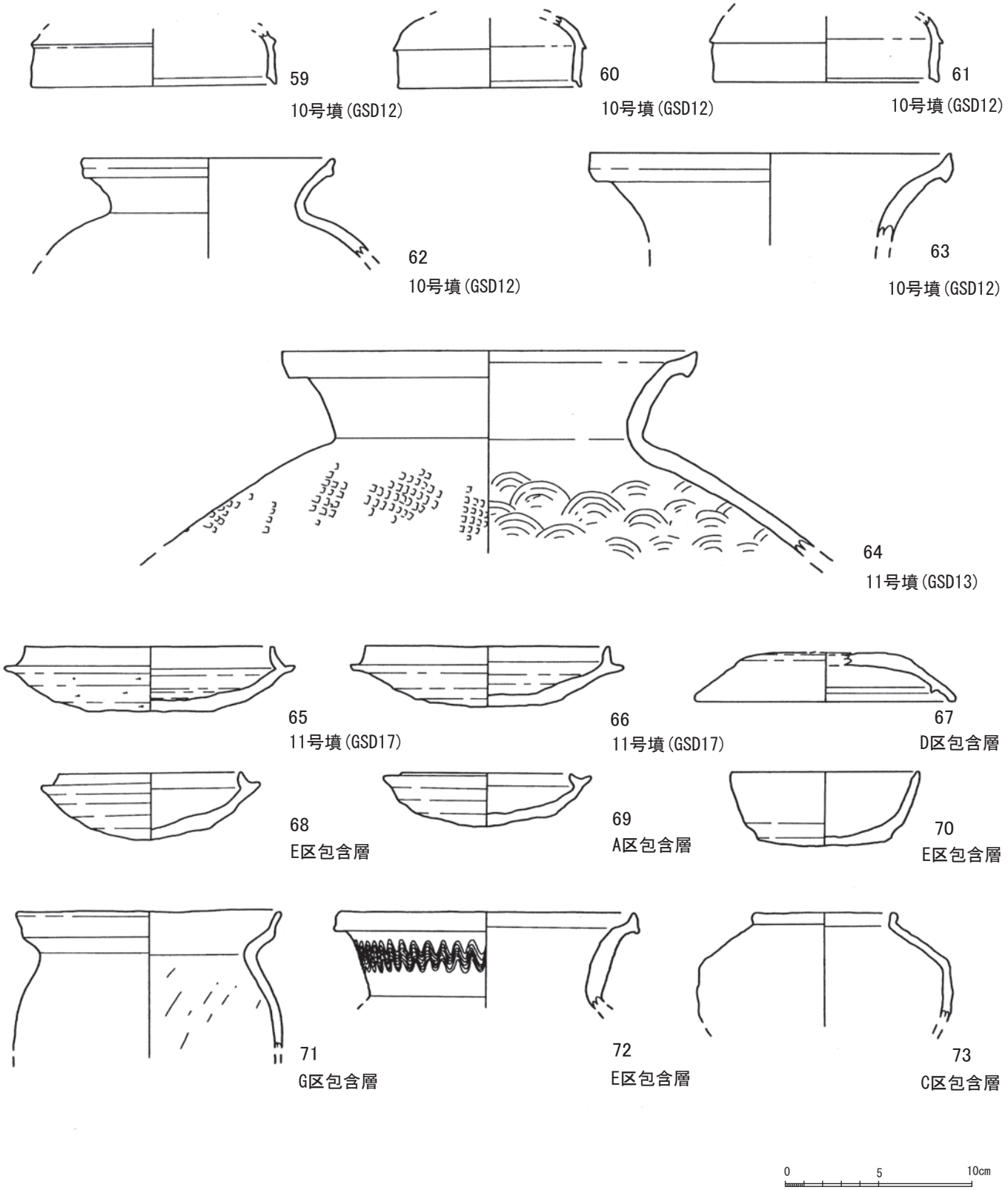

59
10号墳(GSD12)
60
10号墳(GSD12)
61
10号墳(GSD12)
62
10号墳(GSD12)
63
10号墳(GSD12)
64
11号墳(GSD13)
65
11号墳(GSD17)
66
11号墳(GSD17)
67
D区包含層
68
E区包含層
69
A区包含層
70
E区包含層
71
G区包含層
72
E区包含層
73
C区包含層
0
5
10cm

図16　出土遺物5

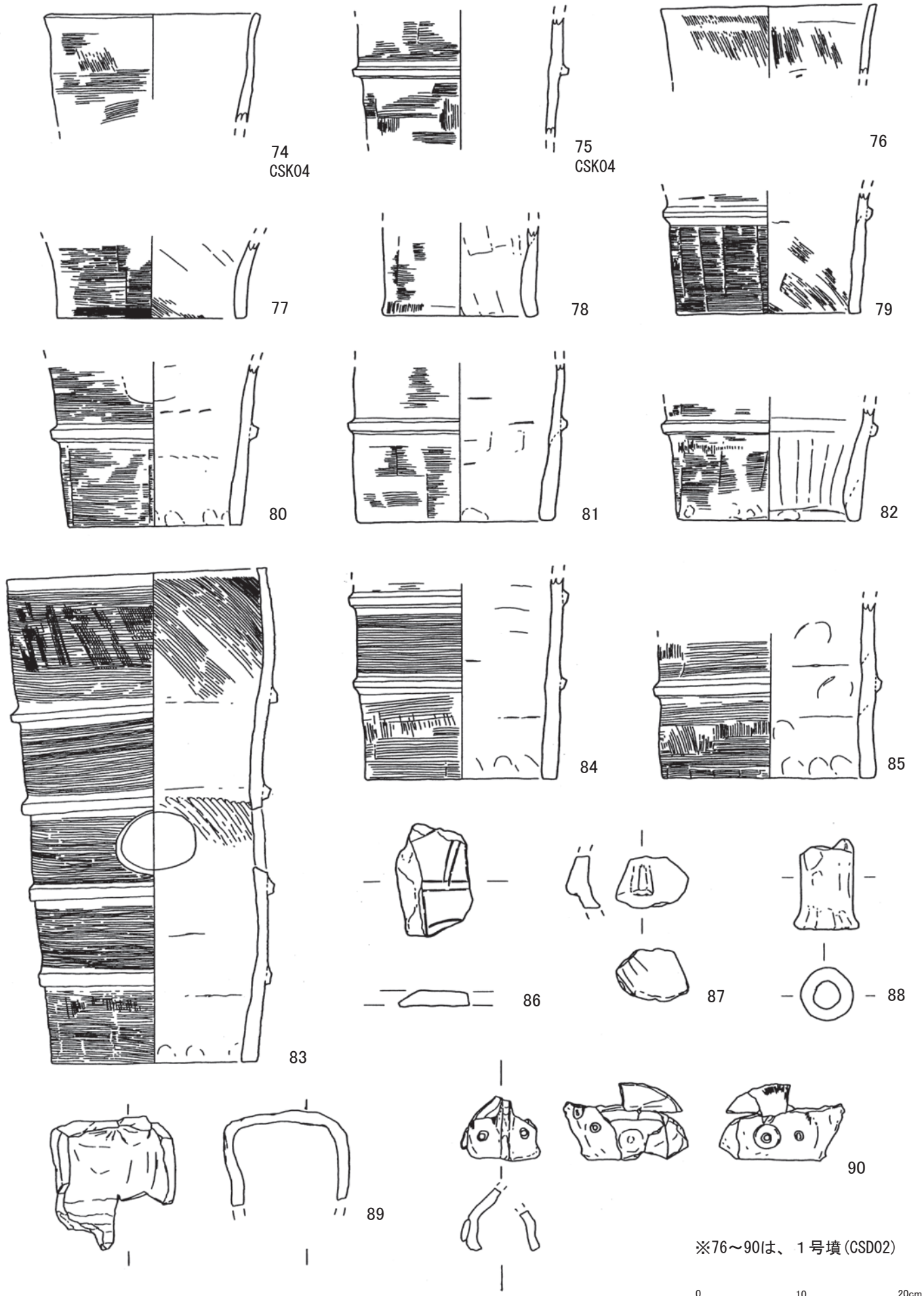

74
CSK04
75
CSK04
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
※76～90は、１号墳(CSD02)
0
10
20cm

図 17　出土遺物６

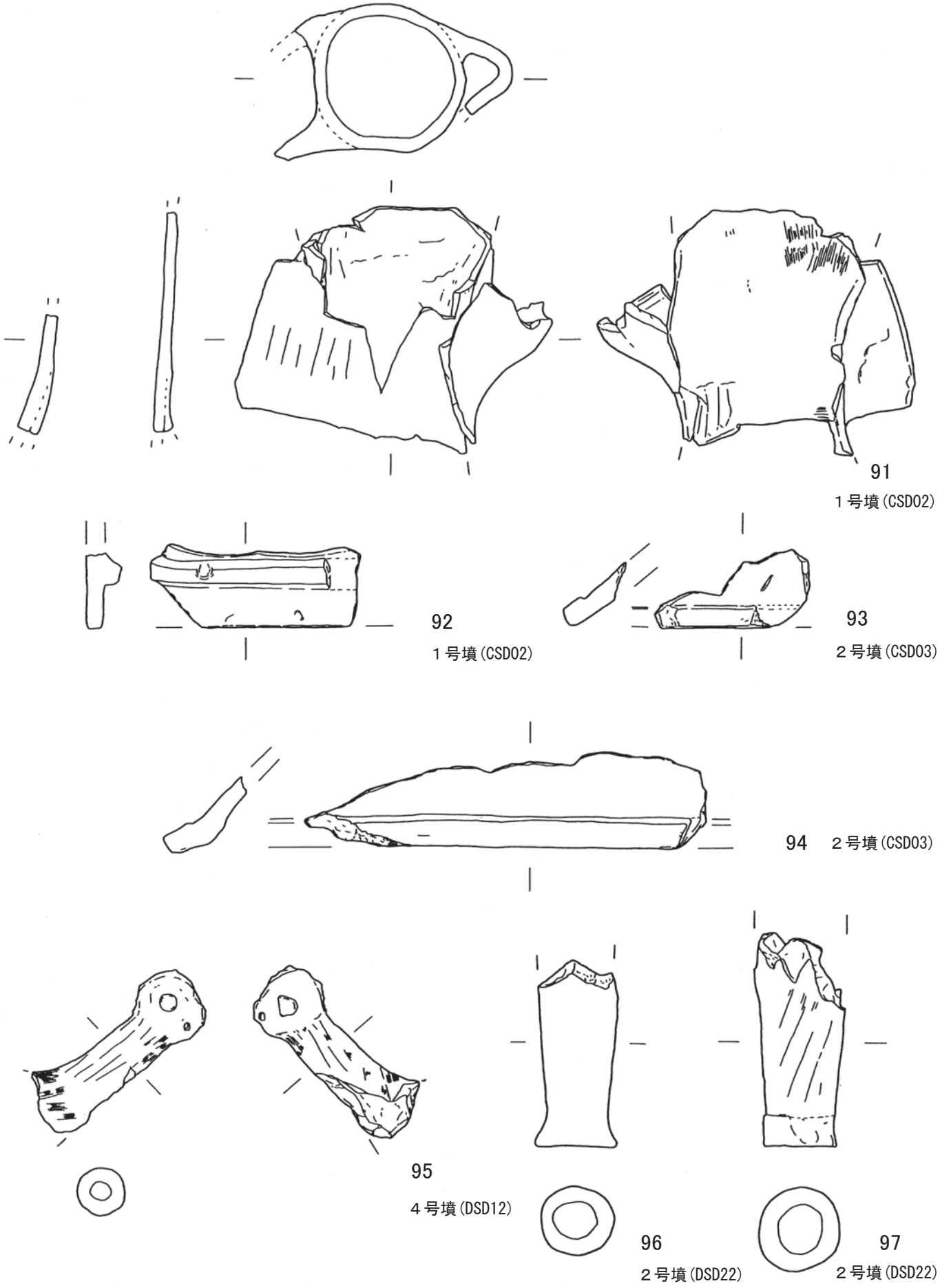
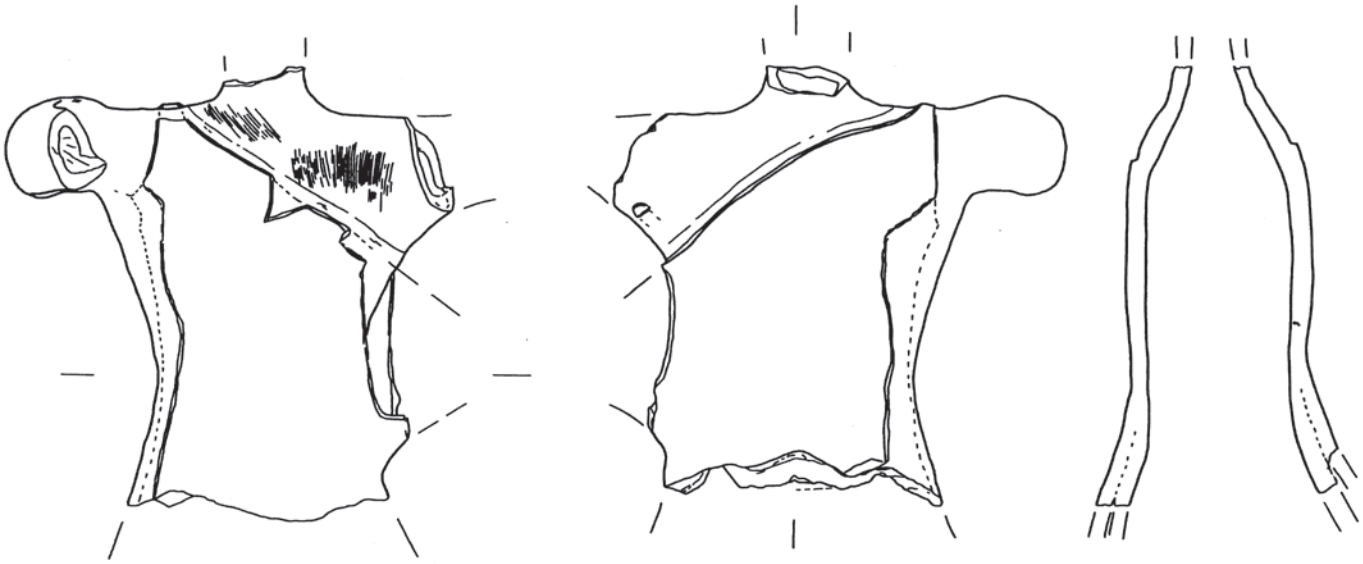
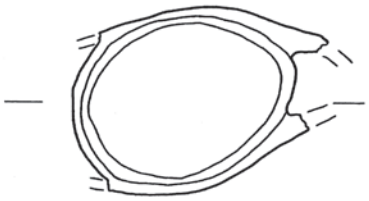

91
1号墳(CSD02)
92
1号墳(CSD02)
93
2号墳(CSD03)
94
2号墳(CSD03)
95
4号墳(DSD12)
96
2号墳(DSD22)
97
2号墳(DSD22)
0
10
20cm

図18　出土遺物7



98　２号墳(DSD22)



99

２号墳(DSD22・23)

図 19　出土遺物８

0　10　20cm

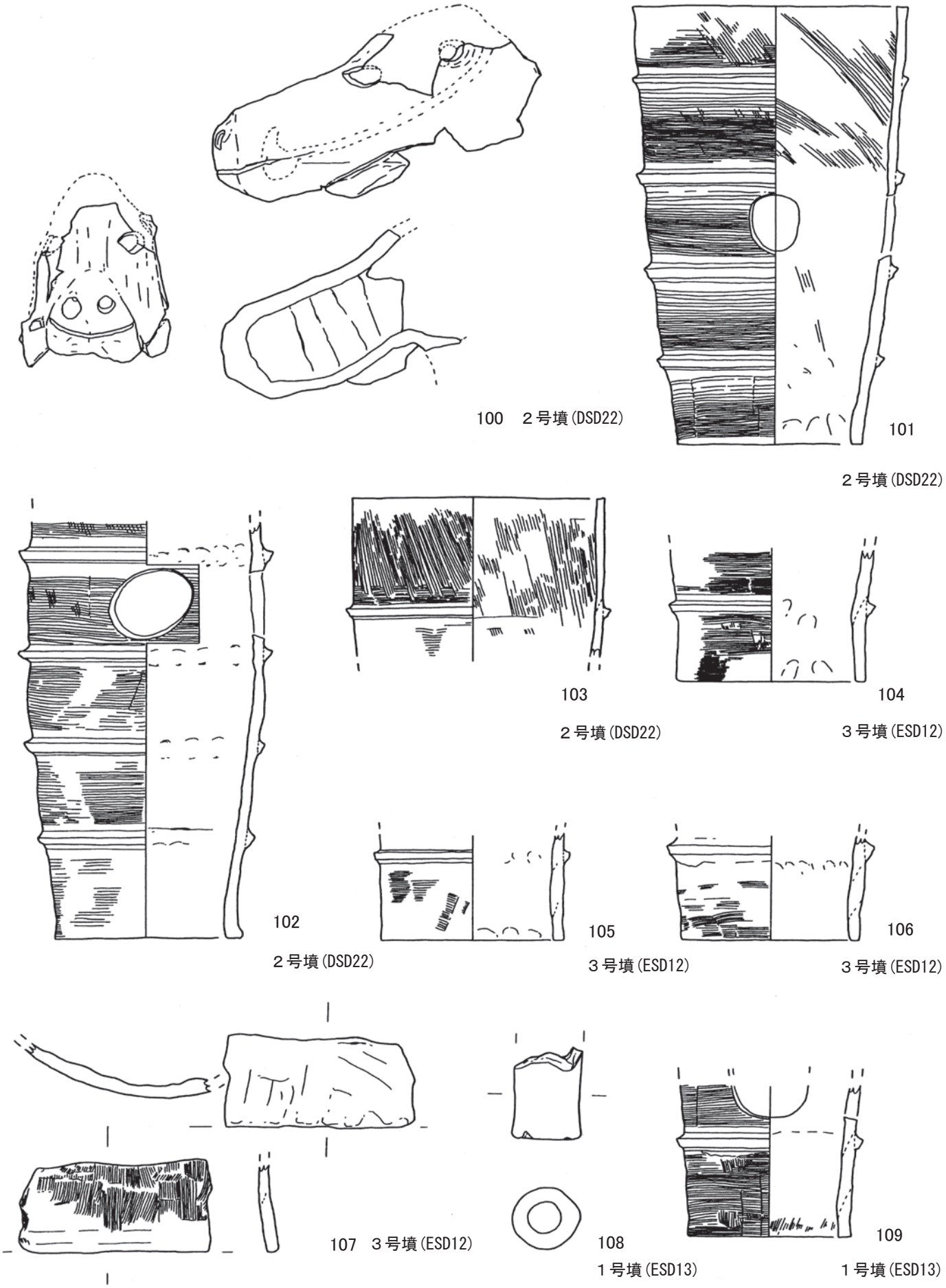

100　２号墳(DSD22)
101
２号墳(DSD22)
102
２号墳(DSD22)
103
２号墳(DSD22)
104
３号墳(ESD12)
105
３号墳(ESD12)
106
３号墳(ESD12)
107　３号墳(ESD12)
108
１号墳(ESD13)
109
１号墳(ESD13)
0
10
20cm

図 20　出土遺物９

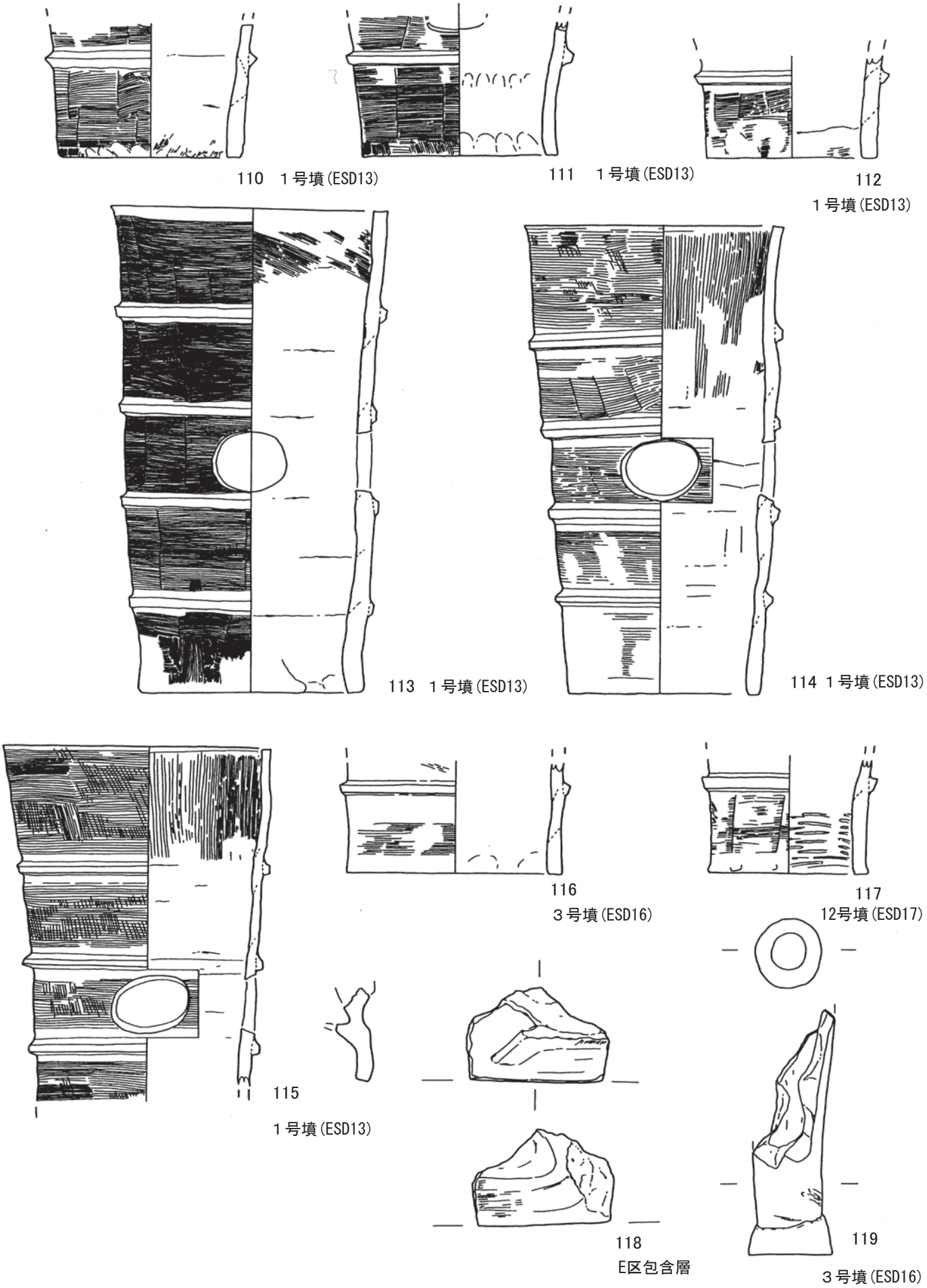

110　1号墳(ESD13)
111　1号墳(ESD13)
112
1号墳(ESD13)
113　1号墳(ESD13)
114 1号墳(ESD13)
115
1号墳(ESD13)
116
3号墳(ESD16)
117
12号墳(ESD17)
118
E区包含層
119
3号墳(ESD16)
0
10
20cm

図21　出土遺物10

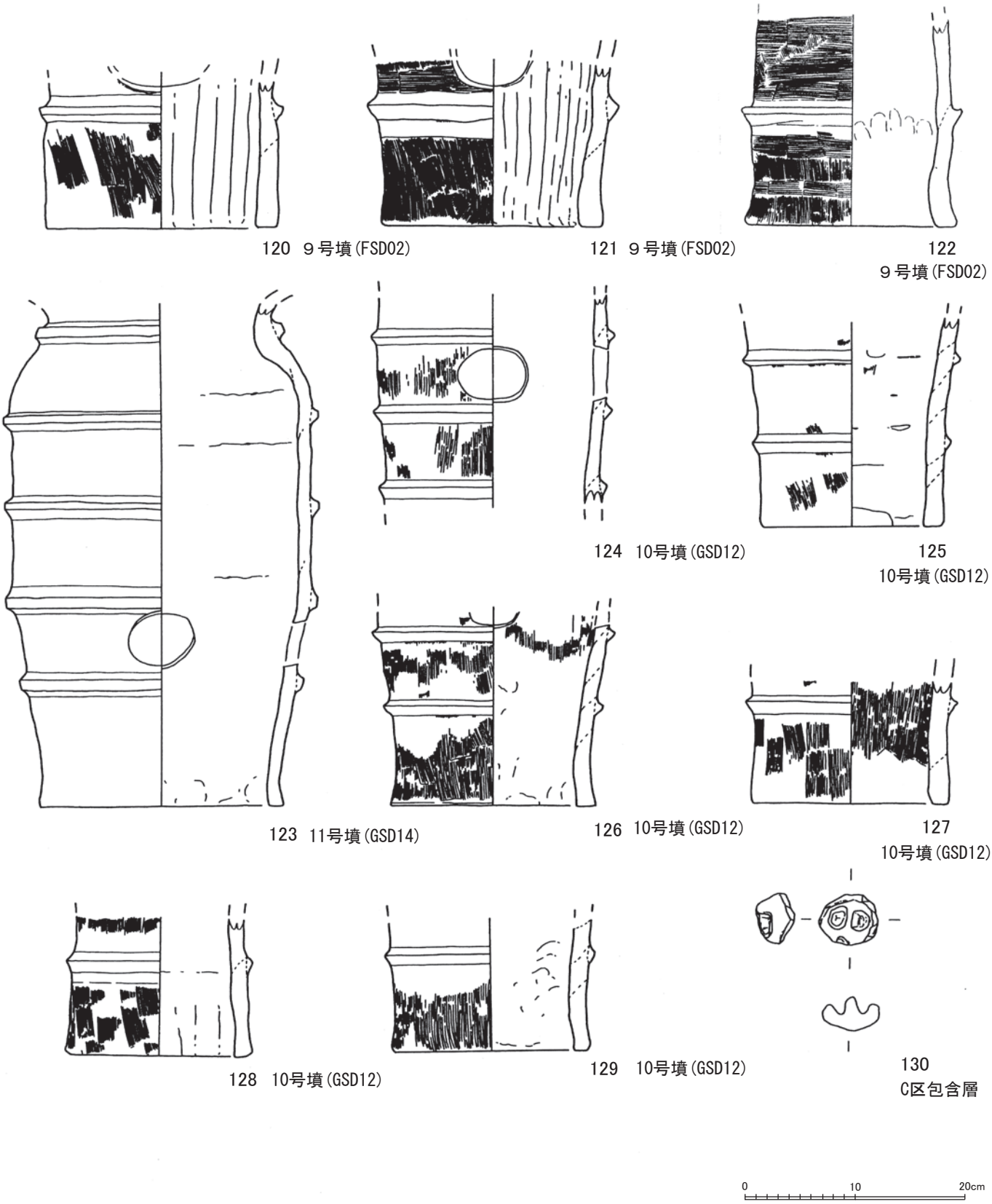
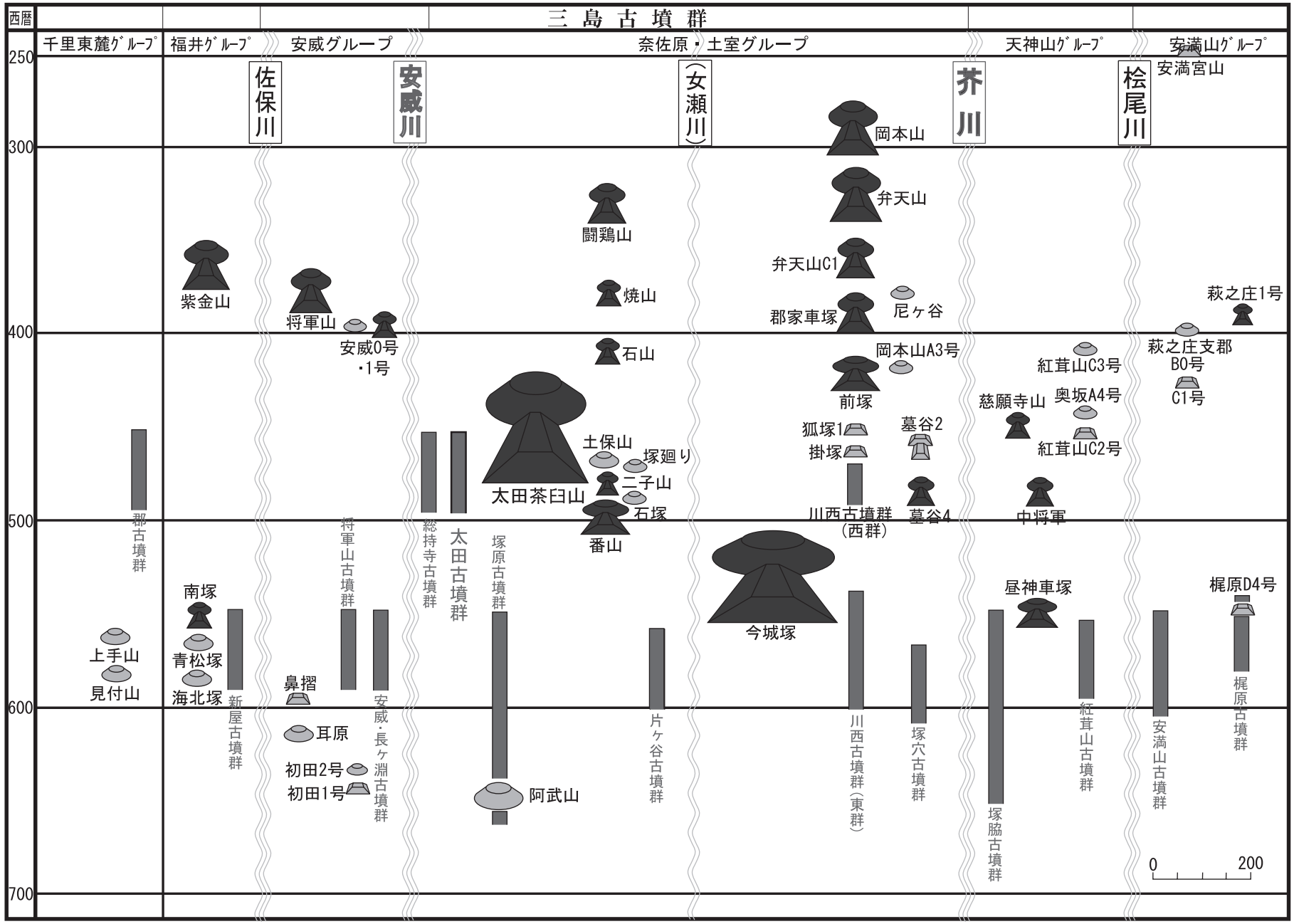

120 ９号墳(FSD02)
121 ９号墳(FSD02)
122
９号墳(FSD02)
124 10号墳(GSD12)
125
10号墳(GSD12)
123 11号墳(GSD14)
126 10号墳(GSD12)
127
10号墳(GSD12)
128 10号墳(GSD12)
129 10号墳(GSD12)
130
C区包含層
0
10
20cm

図 22　出土遺物 11



※平成18年高槻市立しろあと歴史館 秋季特別展『三島古墳群の成立』図4「三島地域の古墳編年」を一部加除筆

図 23　三島古墳群編年図

表１ 出土遺物観察表１

図版番号	№	遺構名	検出面層位	種類	器種	法量（残存長）			調整		色調		胎土	焼成	備考
						口径	底径	器高	内面	外面	内面	外面			
図 12	1	CSK01	埋土内	弥生土器	甕	13.8	―	17	ナデ	タタキ	10YR8/4 浅黄橙色	7.5YR8/6 浅黄橙色	1 ～ 2㎜の礫多く含む	良好	摂津Ⅴ～Ⅵ
図 12	2	CSK01	埋土内	弥生土器	甕	14	―	15.5	板ナデ	タタキ	7.5YR8/6 浅黄橙色	7.5YR7/6 橙色	1 ～ 2㎜の礫多く含む	良好	摂津Ⅴ～Ⅵ
図 12	3	CSK01	埋土内	弥生土器	壺	12.4	―	4.4	ナデ	ナデ	10YR8/3 浅黄橙色	5YR7/6 橙色	精緻	良好	摂津Ⅴ～Ⅵ
図 12	4	CSK02	埋土内	弥生土器	壺	―	8.4	6	ナデ	ナデ・底部ヘラケズリ	7.5YR7/6 橙色	5YR7/6 橙色	1 ～ 2㎜の白色砂粒多く含む	良好	摂津Ⅵ
図 12	5	CSD02（古墳）	埋土内	須恵器	杯身	10	―	3.5	ナデ	ナデ・底部ヘラケズリ	N4/0 灰色	2.5Y5/1 黄灰色	精緻	硬	TK23 ～ TK47
図 12	6	DSP21	第２検出面	弥生土器	甕	5	―	4.3	板状工具によるナデ	タタキ・被熱跡あり	2.5Y3/1 黒褐色	2.5Y7/3 浅黄色	精緻	良好	摂津Ⅴ～Ⅵ
図 12	7	DSP21	第２検出面	弥生土器	壺	4	―	4.5	ナデ	ミガキ	2.5Y8/2 灰白色	10YR8/3 浅黄橙色	1 ㎜の砂粒多く含む	良好	摂津Ⅵ
図 12	8	DSD11	第１検出面	須恵器	壺または甕	31.6	―	10.5	ナデ	ヘラガキ（波状文）	N5/0 灰色	N5/0 灰色	精緻	硬	
図 12	9	DSD22（アゼ西）	第２検出面	須恵器	杯蓋	12	―	4.5	ナデ	ヘラケズリ	5 Y 7/1 灰白色	N5/0 灰色	精緻	硬	TK23 ～ TK47
図 12	10	DSD22（アゼ）	第２検出面	須恵器	杯蓋	13	―	3.7	ナデ	ヘラケズリ	N6/0 灰色	N6/0 灰色	黒色砂粒含む	硬	TK209 ～ TK217
図 12	11	DSD22（アゼａ北側）	第２検出面	須恵器	杯身	11	―	4	ナデ	ヘラケズリ	10YR6/1 褐灰色	2.5Y5/1 黄灰色	精緻	硬	飛鳥Ⅱ～Ⅲ
図 12	12	DSD22（アゼ東）	第２検出面	須恵器	平瓶	―	5	10.5	ナデ	ナデ	N6/0 灰色	N6/0 灰色	精緻	硬	
図 12	13	DSD22（アゼ東）	第２検出面	須恵器	器台	―	46.4	13.6	ナデ	カキメのちヘラガキ	N4/0 灰色	N6/0 灰色	精緻	硬	TK208
図 12	14	DSD23（アゼ南）	第２検出面	須恵器	壺	26.6	―	13.4	ナデ・タタキ	タタキのちナデ	N5/0 灰色	N5/0 灰色	2 ㎜の礫含む	硬	
図 13	15	ESD02	第２検出面	須恵器	杯蓋	12	―	4.5	ナデ	ヘラケズリ	N6/0 灰色	N6/0 灰色	精緻	硬	TK23 ～ TK47
図 13	16	ESD02	第２検出面	須恵器	杯身	9.8	―	3.6	ナデ	ヘラケズリ	10YR8/2 灰白色	10YR8/2 灰白色	精緻	不良	TK209 ～ TK217
図 13	17	ESD02	第２検出面	須恵器	壺	10	―	6.2	ナデ・同心円タタキ	ナデ・格子目タタキ	N5/0 灰色	N5/0 灰色	精緻	硬	
図 13	18	ESD02	第２検出面	須恵器	ハソウ	12	―	15.4	ナデ	ナデ・波状文	10Y5/1 灰白色	N4/0 灰色	精緻	硬	TK23 ～ TK47
図 13	19	ESD12（アゼ北）	第２検出面	須恵器	杯蓋	12	―	4	ナデ	ヘラケズリ	N7/0 灰白色	N7/0 灰白色	精緻	硬	TK23 ～ TK47
図 13	20	ESD13（アゼ東）	第２検出面	須恵器	杯身	10.4	―	4	ナデ	ヘラケズリ	2.5Y8/1 灰白色	N6/0 灰色	精緻	硬	TK209 ～ TK217
図 13	21	ESD13（アゼ西）	第２検出面	須恵器	すり鉢	―	4	9	ナデ	ナデ	N7/0 灰白色	N4/0 灰色	精緻	硬	
図 13	22	ESD02	第２検出面	須恵器	ハソウ	―	―	15.8	ナデ	ナデ・波状文	N6/0 灰色	N6/0 灰色	精緻	硬	

図版番号	No.	遺構名	検出面層位	種類	器種	法量（残存長）			調整		色調		胎土	焼成	備考
						口径	底径	器高	内面	外面	内面	外面			
図 13	23	ESD14	第 2 検出面	須恵器	壺	16	―	20	同心円タタキ	格子目タタキのちカキメ	N5/0 灰色	N4/0 灰色	精緻	硬	自然釉付着
図 13	24	ESD16（北東）	第 2 検出面	須恵器	杯蓋	11	―	4.2	ナデ	ヘラケズリ	N5/0 灰色	N5/0 灰色	精緻	硬	TK47
図 13	25	ESD16（アゼ西）	第 2 検出面	須恵器	杯蓋	11.5	―	3.9	ナデ	ナデ	10Y7/1 灰白色	10Y7/1 灰白色	精緻	不良	TK43 ～ TK209
図 13	26	ESD16（アゼ西）	第 2 検出面	須恵器	杯蓋	12	―	4	ナデ	ヘラケズリ	N5/0 灰色	N5/0 灰色	精緻	硬	TK43 ～ TK209
図 13	27	ESD16（アゼ西）	第 2 検出面	須恵器	杯蓋	11	―	3.3	ナデ	ヘラケズリ	N6/0 灰色	N6/0 灰色	精緻	硬	TK 43 ～ TK209
図 13	28	ESD16（アゼ）	第 2 検出面	須恵器	杯蓋	11	―	5.6	ナデ	ナデ	N6/0 灰色	N6/0 灰色	精緻	硬	TK43 ～ TK209
図 13	29	ESD16（アゼ東）	第 2 検出面	須恵器	杯蓋	10.2	―	3.2	ナデ	ヘラケズリ	N6/0 灰色	2.5Y5/1 黄灰色	精緻	硬	TK43 ～ TK209
図 13	30	ESD16（アゼ西）	第 2 検出面	須恵器	杯蓋	10	―	3.9	ナデ	ナデ	N5/0 灰色	N6/0 灰色	2 ㎜の礫含む	硬	TK43 ～ TK209
図 13	31	ESD16（アゼ西）	第 2 検出面	須恵器	杯蓋	9	―	2.6	ナデ	ヘラケズリ	N6/0 灰色	N6/0 灰色	精緻	硬	TK217・つまみ剥離跡あり
図 2	32	ESD16（アゼ西）	第 2 検出面	須恵器	杯身	9	―	3.8	ナデ	ナデ	2.5Y8/1 灰白色	2.5Y8/1 灰白色	精緻	不良	TK43 ～ TK209
図 13	33	ESD16	第 2 検出面	須恵器	杯身	8	―	3.4	ナデ	ヘラケズリ	N6/0 灰色	N6/0 灰色	精緻	硬	TK43 ～ TK209
図 13	34	ESD16	第 2 検出面	須恵器	杯身	10	―	3	ナデ	ヘラケズリ	N7/0 灰色	N7/0 灰色	精緻	硬	TK43 ～ TK209
図 13	35	ESD16（北東）	第 2 検出面	須恵器	有蓋高杯蓋	―	―	3.6	ナデ	ヘラケズリ	N5/0 灰色	N5/0 灰色	精緻	硬	TK43 ～ TK209
図 14	36	ESD16（アゼ西）	第 2 検出面	須恵器	壺	10	―	16.5	同心円タタキ	ヘラケズリ・タタキ	N6/0 灰色	N6/0 灰色	精緻	硬	
図 14	37	ESD16（北東）	第 2 検出面	須恵器	有蓋高杯	9.8	9	10.2	ナデ	ヘラケズリ	N5/0 灰色	N5/0 灰色	精緻	硬	TK23 ～ TK47
図 14	38	ESD16（アゼ）	第 2 検出面	須恵器	ハソウ	―	―	12	ナデ	ヘラケズリ	N4/0 灰色	N4/0 灰色	2 ㎜の礫多く含む	硬	TK10
図 14	40	ESD16（アゼ西）	第 2 検出面	須恵器	甕	22	―	8	同心円タタキ	タタキ	2.5Y6/1 黄灰色	N4/0 灰色	精緻	硬	
図 14	41	ESD16（アゼ西）	第 2 検出面	須恵器	壺	24	―	13.5	同心円タタキ	格子目タタキのちカキメ	2.5Y7/1 灰白色	10Y7/1 灰白色	精緻	やや不良	TK43 ～ TK209
図 14	42	ESD17	第 2 検出面	須恵器	杯身	9.6	―	3.5	ナデ	ヘラケズリ	N7/0 灰色	N7/0 灰色	精緻	やや不良	TK43 ～ TK209
図 14	43	ESD17	第 2 検出面	須恵器	ハソウ	11	―	10.2	ナデ	ヘラケズリ・タタキ波状文	N6/0 灰色	N6/0 灰色	3 ～ 5㎜の礫含む	硬	TK23 ～ TK47
図 14	44	ESD17	第 2 検出面	須恵器	壺	18	―	24.5	同心円タタキ	格子目タタキのちナデ	10Y5/2 オリーブ灰色	5Y5/1 灰色	精緻	硬	
図 15	45	FSD01	第 2 検出面	土師器	壺	17	―	6.2	ナデ	ケズリ	10YR8/2 灰白色	10YR7/2 にぶい黄橙色	2 ㎜の礫多く含む	良好	

図版番号	No.	遺構名	検出面層位	種類	器種	法量(残存長)			調整		色調		胎土	焼成	備考
						口径	底径	器高	内面	外面	内面	外面			
図 15	46	FSD01	第 2 検出面	土師器	壺	13	—	5.2	ナデ	ナデ	2.5Y8/3 淡黄色	10YR8/4 淡黄橙色	精緻	良好	
図 15	47	FSD02 アゼ (2) 南	第 2 検出面	須恵器	杯蓋	12	—	4.2	ナデ	ヘラケズリ	N5/0 灰色	N5/0 灰色	精緻	良好	TK23 ～ TK47
図 15	48	FSD02 アゼ (2)	第 2 検出面	須恵器	杯蓋	11.4	—	4.5	ナデ	ヘラケズリ	N5/0 灰色	N5/0 灰色	精緻	良好	TK23 ～ TK47
図 15	49	FSD02 アゼ (2) 南	第 2 検出面	須恵器	杯身	9.6	—	5	ナデ	ヘラケズリ	N5/0 灰色	N5/0 灰色	1 ～ 3㎜の礫含む	硬	TK23 ～ TK47
図 15	50	FSD02 アゼ (2) 付近	第 2 検出面	須恵器	杯身	12	—	4	ナデ	ヘラケズリ	N8/0 灰色	N8/0 灰色	精緻	硬	TK23 ～ TK47 自然釉付着
図 15	51	FSD02 アゼ (2)	第 2 検出面	須恵器	杯身	10	—	3.9	ナデ	ヘラケズリ	N7/0 灰色	N6/0 灰色	精緻	硬	TK23 ～ TK47
図 15	52	GSP07	第 2 検出面	須恵器	杯身	11	—	3.7	ナデ	ヘラケズリ	N5/0 灰色	N5/0 灰色	精緻	硬	TK23 ～ TK47
図 15	53	GSX02 アゼ東側	第 2 検出面	土師器	壺	11	—	5.5	ナデ	ナデ	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR8/4 浅黄橙色	1 ㎜の細かい砂粒含む	良好	
図 15	54	GSX02 アゼ東側	第 2 検出面	土師器	壺	10	—	6.5	ナデ	ナデ	7.5YR8/2 灰白色	7.5YR7/4 にぶい橙色	1 ㎜の細かい砂粒含む	良好	
図 15	55	GSX02 アゼ東側	第 2 検出面	土師器	高杯	—	—	11	ミガキ	ミガキ	5YR5/1 褐灰色	7.5YR5/2 灰褐色	精緻	良好	
図 16	57	GSX02 アゼ	第 2 検出面	土師器	壺	35	—	14.5	ナデ	ナデ	7.5YR8/6 浅黄橙色	5YR7/6 橙色	3 ～ 5㎜の礫含む	良好	
図 16	58	GSD08 アゼ南	第 2 検出面	土師器	高杯	25	—	7.7	ナデ	ナデ	7.5YR2/6 浅黄橙色	7.5YR2/6 浅黄橙色	2 ～ 3㎜の礫含む	良好	TK23 ～ TK47
図 16	59	GSD012 アゼ	第 2 検出面	須恵器	杯蓋	13	—	2.8	ナデ	ナデ	N7/0 灰色	N7/0 灰色	精緻	硬	TK23 ～ TK47
図 16	60	GSD012 アゼ	第 2 検出面	須恵器	杯蓋	12	—	3.5	ナデ	ナデ	N8/2 灰白色	N7/0 灰色	精緻	硬	TK23 ～ TK47
図 16	61	GSD012 アゼ	第 2 検出面	須恵器	杯蓋	10	—	3.7	ナデ	ナデ	N7/0 灰色	N7/0 灰色	精緻	硬	TK23 ～ TK47 自然釉付着
図 16	62	GSD012 アゼ	第 2 検出面	須恵器	壺	19	—	4.5	ナデ	ナデ	5Y6/1 灰色	2.5Y6/1 灰色	1 ㎜の細かい砂粒含む	硬	
図 16	63	GSD012 アゼ	第 2 検出面	須恵器	壺	17.2	—	5.4	ナデ	ナデ	N6/0 灰色	5Y5/1 灰色	精緻	硬	
図 16	64	GSD013 アゼ東	第 2 検出面	須恵器	壺か甕	22	—	10.4	同心円タタキ	格子目タタキ	N6/0 灰色	2.5Y5/1 灰色	精緻	硬	TK209 ～ TK217
図 16	65	GSD017 アゼ (1) 南	第 2 検出面	須恵器	杯身	13.2	—	3.4	ナデ	ヘラケズリ	N7/0 灰色	N7/0 灰色	3㎜の礫含む		TK209 ～ TK217
図 16	66	GSD017 アゼ (1) 南	第 2 検出面	須恵器	杯身	12.8	—	3.2	ナデ	ヘラケズリ	2.5Y7/1 灰色	2.5Y7/1 灰色	精緻	硬	TK217 ～ TK46
図 16	67	D 区包含層		須恵器	杯蓋	14	—	2.5	ナデ	ヘラケズリ	10YR7/1 灰白色	10YR5/1 褐灰色	精緻	硬	飛鳥Ⅱ～Ⅲ
図 16	68	E 区包含層	第 2 検出面	須恵器	杯身	9.8	—	3.5	ナデ	ナデ	2.5YR8/2 灰白色	2.5YR8/1 灰白色	精緻	不良	TK209 ～ TK217

図版番号	No.	遺構名	検出面層位	種類	器種	法量（残存長）			調整		色調		胎土	焼成	備考
						口径	底径	器高	内面	外面	内面	外面			
図 16	69	A 区包含層	第 2 検出面	須恵器	杯身	9	―	2.9	ナデ	ナデ	N5/0 灰色	N6/0 灰色	精緻	硬	TK209 ～ TK217
図 16	70	E 区包含層	第 2 検出面	須恵器	杯身	10	―	3.9	ナデ	ナデ	N6/0 灰色	N6/0 灰色	精緻	硬	
図 16	71	G 区包含層	―	土師器	壺	14	―	7.5	ケズリ	ナデ	7.5YR7/4 にぶい橙色	10YR7/2 にぶい黄橙色	1 ～ 3㎜の礫含む	良好	
図 16	72	E 区包含層		須恵器	壺	15.4	―	4.5	ナデ	ナデ・ヘラガキ波状文	N5/0 灰色	N5/0 灰色	精緻	硬	
図 16	73	C 区包含層	第 1 検出面	須恵器	壺	7.6	―	5.8	ナデ	ナデ	10YR7/1 灰白色	2.5Y5/1 黄灰色	精緻	硬	
図 17	74	CSK04	埋土内	円筒埴輪	口縁部	21	―	11	ナデ	タテハケのちヨコハケ	7.5YR7/6 橙色	10YR5/1 褐灰色	1 ～ 3㎜の礫含む	良好	川西編年Ⅳ期・75 と同一固体の可能性
図 17	75	CSK04	埋土内	円筒埴輪	体部	―	―	11	ナデ	タテハケのちヨコハケ	7.5YR7/6 橙色	10YR5/1 褐灰色	1 ～ 3㎜の礫含む	良好	川西編年Ⅳ期・74 と同一固体の可能性
図 17	76	CSD02（古墳）	一括土器だまり（A）	円筒埴輪	口縁部	21	―	7	タテハケ・ナデ	タテハケ	2.5YR7/2 灰黄色	2.5YR7/3 浅黄色	1 ～ 3㎜の礫含む	良好	川西編年Ⅳ期
図 17	77	CSD02（古墳）	一括土器だまり（A）	円筒埴輪	底部	―	18	7.5	タテハケ・ナデ	ヨコハケ	10YR7/3 にぶい黄橙色	7.5YR8/6 浅黄橙色	4 ～ 6㎜の礫含む	良好	川西編年Ⅳ期
図 17	78	CSD02（古墳）	埋土内	円筒埴輪	底部	―	15	8.6	板ナデ	タテハケのちヨコハケ	2.5Y6/2 灰黄色	10YR6/3 にぶい黄橙色	1 ～ 3㎜の礫含む	良好	川西編年Ⅳ期
図 17	79	CSD02（古墳）	埋土内	円筒埴輪	底部	―	18	12	タテハケ・ナデ	タテハケのちヨコハケ	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/6 橙色	2 ～ 4㎜の礫多く含む	良好	川西編年Ⅳ期
図 17	80	CSD02（古墳）	埋土内	円筒埴輪	底部	―	17	15.5	ナデ・指おさえ	ヨコハケ	7.5YR6/3 にぶい橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	2 ～ 4㎜の礫多く含む	良好	川西編年Ⅳ期
図 17	81	CSD02（古墳）	埋土内	円筒埴輪	底部	―	18.4	15.6	ナデ	ヨコハケ	10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR7/2 にぶい黄橙色	2 ～ 4㎜の礫多く含む	良好	川西編年Ⅳ期
図 17	82	CSD02（古墳）	埋土内	円筒埴輪	底部	―	18	11	板ナデ	タテハケのちヨコハケ	2.5Y6/2 灰黄色	10YR7/3 にぶい黄橙色	2 ～ 4㎜の礫多く含む	良好	川西編年Ⅳ期
図 17	83	CSD02（古墳）アゼ西	埋土内	円筒埴輪	底部～口縁部	25	20	48	タテハケ・ナデ	タテハケのちヨコハケ	10YR8/4 淡黄橙色	2.5Y8/2 灰白色	精緻	良好	川西編年Ⅳ期
図 17	84	CSD02（古墳）	埋土内	円筒埴輪	底部～体部	―	19	19.5	ナデ	タテハケのちヨコハケ	7.5YR8/3 浅黄橙色	10YR8/4 浅黄橙色	1 ～ 3㎜の礫含む	良好	川西編年Ⅳ期
図 17	85	CSD02（古墳）	埋土内	円筒埴輪	底部	―	20.7	17.1	ナデ・指おさえ	タテハケのちヨコハケ	10YR2/3 浅黄橙色	2.5Y8/2 灰白色	1 ～ 3㎜の礫含む	良好	川西編年Ⅳ期
図 17	86	CSD02（古墳）	埋土内	形象埴輪	体部	―	―	―	ナデ	ナデのち線刻	10YR 7 /2 にぶい黄橙色	10YR 7 /2 にぶい黄橙色	1 ～ 3㎜の礫含む	良好	盾の部材
図 17	87	CSD02（古墳）	埋土内	形象埴輪	足	―	―	4.8	ナデ	ナデ	2.5Y8/2 灰白色	2.5Y8/2 灰白色	精緻	良好	動物足・ヒズメ表現なし
図 17	88	CSD02（古墳）	埋土内	形象埴輪	頭部	―	―	―	ナデ	ナデ	2.5Y8/2 灰白色	2.5Y8/2 灰白色	精緻	良好	人物頭部
図 17	89	CSD02（古墳）	埋土内	形象埴輪	頭部	―	―	―	ナデ	ナデ	2.5Y8/2 灰白色	2.5Y8/1 灰白色	精緻	良好	人物頭部
図 17	90	CSD02（古墳）	埋土内	形象埴輪	頭部	―	―	―	ナデ	ナデ	10YR8/2 灰白色	7.5YR8/4 浅黄橙色	1㎜の礫含む	良好	鶏の頭部

図版番号	No.	遺構名	検出面層位	種類	器種	法量（残存長）			調整		色調		胎土	焼成	備考
						口径	底径	器高	内面	外面	内面	外面			
図 18	91	CSD02（古墳）	埋土内	形象埴輪	体部	—	—	—	ナデ	ナデ・一部タテハケ	2.5Y7/2 灰白色	7.5YR8/6 にぶい橙色	1 ～ 3㎜の礫含む	良好	人物（巫女）胴部
図 18	92	CSD02（古墳）	埋土内	形象埴輪	体部	—	—	—	ナデ	ナデ	10YR8/3 浅黄橙色	10YR8/4 浅黄橙色	1 ～ 5㎜の礫含む	良好	家形埴輪の部材
図 18	93	CSD03（古墳）	埋土内	形象埴輪	体部	—	—	—	ナデ	ナデ	10YR 7 /2 にぶい黄橙色	10YR 7 /2 にぶい黄橙色	1 ～ 3㎜の礫含む	良好	家形埴輪の部材
図 18	94	CSD03（古墳）	埋土内	形象埴輪	体部	—	—	—	ナデ	ナデ	2.5Y8/3 淡黄色	2.5Y8/3 淡黄色	1㎜の礫含む	良好	家形埴輪の部材
図 18	95	DSD12（北）	埋土内	形象埴輪	頭部	—	—	—	ナデ	ナデ・一部タテハケ	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	1 ～ 3㎜の礫含む	良好	鶏の頭部
図 18	96	DSD22 アゼ	第 2 検出面	形象埴輪	—	—	8	18	ナデ	ナデ	7.5YR8/6 浅黄橙色	7.5YR8/6 浅黄橙色	3㎜の礫含む	良好	動物の足・ヒズメ表現なし
図 18	97	DSD22 アゼ東	第 2 検出面	形象埴輪	—	—	—	22	ナデ	ナデ	10YR8/3 浅黄橙色	10YR8/4 浅黄橙色	1 ～ 3㎜の礫含む	良好	動物足（ヒズメあり）・底部に黒斑あり
図 19	98	DSD22 アゼ	第 2 検出面	形象埴輪	体部	—	—	—	ナデ	ナデ	10YR4/1 褐灰色	10YR4/2 にぶい黄橙色	1 ～ 3㎜の礫含む	良好	人物（巫女）胴部
図 19	99	DSD22 DSD23	第 2 検出面	形象埴輪	—	—	—	—	ナデ	ハケ	2.5Y8/2 灰白色	2.5Y8/2 灰白色	1 ～ 3㎜の礫含む	良好	家型埴輪屋根
図 20	100	DSD22	第 2 検出面	形象埴輪	頭部	—	—	—	ナデ	ナデ	2.5Y8/3 淡黄色	2.5Y8/3 淡黄色	1㎜の礫含む	良好	馬の頭部
図 20	101	DSD22	第 2 検出面	円筒埴輪	底部～口縁部	25.6	17	41.8	タテハケのちナデ	タテハケのちヨコハケ	5YR6/9 にぶい橙色	5YR7/4 にぶい橙色	2㎜の礫多く含む	良好	川西編年Ⅳ期
図 20	102	DSD22 アゼ西	第 2 検出面	円筒埴輪	底部～体部	18	—	40	ナデ・指押さえ	タテハケのちヨコハケ	5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	1 ～ 3㎜の礫含む	良好	川西編年Ⅳ期
図 20	103	DSD22 アゼ東	第 2 検出面	円筒埴輪	口縁部	25.2	—	15	タテハケのちナデ	ヨコハケのちタテハケ	7.5YR7/8 黄橙色	5YR7/6 橙色	精緻	良好	川西編年Ⅳ期
図 20	104	ESD12 アゼ北	第 2 検出面	円筒埴輪	底部	—	18	17.6	ナデ・指押さえ	タテハケのちヨコハケ	10YR7/2 にぶい黄橙色	10YR8/3 黄橙色	1 ～ 5㎜の礫含む	良好	川西編年Ⅳ期
図 20	105	ESD12 アゼ北	第 2 検出面	円筒埴輪	底部	—	18	10	ナデ・指押さえ	ヨコハケ	7.5YR7/4 橙色	7.5YR8/6 浅黄橙色	2 ～ 4㎜の礫多く含む	良好	川西編年Ⅳ期
図 20	106	ESD12 アゼ北	第 2 検出面	円筒埴輪	底部	—	17	11.6	ナデ・指押さえ	ヨコハケ	10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR8/4 浅黄橙色	1 ～ 5㎜の礫含む	良好	川西編年Ⅳ期
図 20	107	ESD12 アゼ	第 2 検出面	形象埴輪	底部	—	—	8.4	ナデ	ハケ	10YR8/3 黄橙色	10YR8/2 灰白色	1 ～ 5㎜の礫含む	良好	底部の形状が楕円形を呈している
図 20	108	ESD13 アゼ西側	第 2 検出面	形象埴輪	底部	—	—	—	ナデ	ナデ	2.5Y8/1 黄灰色	10YR8/3 浅黄橙色	1㎜の礫含む	良好	動物足（ヒズメなし）・底部に黒斑あり
図 20	109	ESD13 アゼ東	第 2 検出面	円筒埴輪	底部	—	16	14.5	タテハケのちナデ	タテハケのちヨコハケ	10YR7/2 にぶい黄橙色	10YR7/2 にぶい黄橙色	1㎜の礫含む	良好	川西編年Ⅳ期
図 21	110	ESD13 アゼ東	第 2 検出面	円筒埴輪	底部	—	19	13	ナデ・指押さえ	タテハケのちヨコハケ	10YR7/2 にぶい黄橙色	2.5Y8/2 灰白色	1 ～ 2㎜の礫含む	良好	黒斑あり
図 21	111	ESD13 アゼ東	第 2 検出面	円筒埴輪	底部	—	18	13	タテハケのちナデ	タテハケのちヨコハケ	7.5YR7/3 浅黄色	10YR7/3 にぶい黄橙色	1 ～ 5㎜の礫含む	良好	Ⅳ期
図 21	112	ESD13 アゼ北	第 2 検出面	円筒埴輪	底部	—	17	9.8	ヨコハケのちナデ	ヨコハケ	7.5YR8/6 浅黄橙色	7.5YR8/3 浅黄橙色	1 ～ 5㎜の礫含む	良好	Ⅳ期

図版番号	No.	遺構名	検出面層位	種類	器種	法量（残存長）			調整		色調		胎土	焼成	備考
						口径	底径	器高	内面	外面	内面	外面			
図 21	113	ESD13 アゼ東	第 2 検出面	円筒埴輪	底部～口縁部	27	22	47.5	ナデ・口縁部タテハケ	タテハケのちヨコハケ	2.5Y8/2 淡黄色	7.5YR8/3 浅黄橙色	精緻	良好	Ⅳ期
図 21	114	ESD13 アゼ西	第 2 検出面	円筒埴輪	底部～口縁部	25.5	18.5	—	ナデ・口縁部タテハケ	タテハケのちヨコハケ	2.5Y8/3 淡黄色	7.5YR7/2 浅黄色	3 ～ 7㎜の礫含む	良好	最上段に線刻あり
図 21	115	ESD13 アゼ東	第 2 検出面	円筒埴輪	口縁部～体部	29	—	27.5	ナデ・口縁部タテハケ	タテハケのちヨコハケ	10YR8/4 浅黄橙色	10YR8/2 にぶい黄橙色	精緻	良好	最上段に線刻あり
図 21	116	ESD16 アゼ西	第 2 検出面	円筒埴輪	底部	—	21	10.8	ナデ	ヨコハケ	7.5YR8/4 浅黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色	3 ～ 5㎜の礫含む	良好	Ⅳ期
図 21	117	ESD17 アゼ西	第 2 検出面	円筒埴輪	底部	—	15.6	11	タタキのちナデ	ヨコハケ	7.5YR7/3 浅黄色	7.5YR7/4 浅黄色	2 ～ 3㎜の礫含む	良好	Ⅳ期
図 21	118	E 区	E 区包含層	形象埴輪	体部	—	—	—	ナデ	ナデ	10YR7/2 にぶい黄橙色	10YR7/2 にぶい黄橙色	1 ～ 4㎜の礫含む	良好	家形埴輪の部材
図 21	119	ESD16 アゼ西	第 2 検出面	形象埴輪	底部	—	—	—	ナデ	ナデ	2.5Y8/2 淡黄色	2.5Y8/2 淡黄色	1 ～ 5㎜の礫含む	良好	動物足（ヒズメあり）・底部に黒斑あり
図 22	120	FSD02 アゼ南	第 2 検出面	円筒埴輪	底部	—	21	13.3	ナデ	タテハケ	2.5Y7/2 灰黄色	2.5Y7/2 灰黄色	2 ～ 3㎜の礫含む	良好	Ⅳ期
図 22	121	FSD02 アゼ南	第 2 検出面	円筒埴輪	底部	—	20	15	ナデ	タテハケのちヨコハケ	7.5YR7/3 浅黄色	2.5Y7/2 灰黄色	5㎜の礫含む	良好	黒斑あり
図 22	122	FSD02 アゼ南	第 2 検出面	円筒埴輪	底部	—	19	18.6	ナデ	タテハケのちヨコハケ	10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	2 ～ 3㎜の礫含む	良好	Ⅳ期
図 22	123	GSD14 アゼ南	第 2 検出面	朝顔型埴輪	底部	—	23	48	ナデ	ナデ	10YR8/3 浅黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色	1 ～ 5㎜の礫含む	良好	Ⅳ期
図 22	124	GSD12 アゼ	第 2 検出面	円筒埴輪	体部	—	—	19	ナデ	タテハケ	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/6 橙色	1㎜の礫含む	良好	Ⅳ期
図 22	125	GSD12 アゼ	第 2 検出面	円筒埴輪	底部	—	16	18.5	ナデ	タテハケ	5YR7/8 橙色	5YR7/6 橙色	1 ～ 5㎜の礫含む	良好	Ⅳ期
図 22	126	GSD12 アゼ西	第 2 検出面	円筒埴輪	底部	—	18.6	18.5	タテハケのちナデ	タテハケ	10YR7/2 にぶい黄橙色	7.5YR7/0 橙色	3 ～ 5㎜の礫含む	良好	Ⅳ期
図 22	127	GSD12 アゼ西	第 2 検出面	円筒埴輪	底部	—	18	11	タテハケのちナデナデ	タテハケ	10YR7/4 にぶい黄橙色	7.5YR7/0 橙色	1㎜の礫含む	良好	Ⅳ期
図 22	128	GSD12 アゼ西	第 2 検出面	円筒埴輪	底部	—	17	12.5	ナデ	タテハケ	10YR7/4 にぶい黄橙色	5YR7/8 橙色	1㎜の礫含む	良好	Ⅳ期
図 22	129	GSD12 アゼ西	第 2 検出面	円筒埴輪	底部	—	18	11.7	ナデ	タテハケ	7.5YR7/8 黄橙色	5YR6/8 橙色	1 ～ 5㎜の礫含む	良好	Ⅳ期
図 22	130	C 区	包含層	形象埴輪	頭部	—	—	—	ナデ	ナデ	7.5YR8/8 黄橙色	7.5YR8/8 黄橙色	1 ～ 5㎜の礫含む	良好	動物頭部鼻部分

図版1　第1次調査区

石敷俯瞰（南から）

図版2　第1次調査区

全景（西から）

石敷断割状況（北西から）

図版3　第1次調査区

石敷全景（西から）

遺構検出作業（西から）

図版4　第1次調査区

石敷全景（北から）

石積状況（北から）

図版5　第1次調査区

調査区全景（西から）

石敷全景（西から）

図版6　第2次調査区

俯瞰（北から）

俯瞰（南から）

A・B区調査区全景（北西から）

A・B区調査区全景（西から）

図版8　第2次調査区

A区全景（北東から）

A区遺構検出状況（南から）

図版9　第2次調査区

C区俯瞰（北から）

C区全景（西から）

図版10　第2次調査区

Ｃ区遺構検出状況（南西から）

１号墳土層断面（東から）

D・E区俯瞰（南から）

D・E区全景（東から）

図版12　第2次調査区

E区全景（南から）

G区全景（南から）

E区全景（西から）

E～G区俯瞰（西から）

図版14　第2次調査区

Ｆ区全景（真上から）

９号墳全景（北から）

Ｄ区全景（南から）

大溝〔ＣＳＤ－１〕土層断面（北から）

ＣＳＫ－１遺物出土状況

１号墳北側周溝埴輪出土状況（南から）

1号墳検出状況（北から）

1号墳南側周溝埴輪出土状況（西から）

４号墳周溝鶏形埴輪出土状況

図版19　須恵器壺

左 6号墳・右 12号墳／遺物番号 23・44

図版20　円筒埴輪

1号墳ー遺物番号83

図版21　円筒埴輪

2号墳ー遺物番号 102

図版22　巫女形埴輪

2号墳ー遺物番号 98

2号墳－遺物番号 99

図版24　馬形埴輪

2号墳－遺物番号100

報告書抄録

ふりがな	おおだいせきはっくつちょうさがいほう
書名	太田遺跡発掘調査概報
シリーズ名	茨木市文化財資料集
シリーズ番号	第61集
編著者	黒須靖之　　関　梓（～平成25年９月）
編集機関	茨木市教育委員会
所在地	〒567－8505　大阪府茨木市駅前三丁目８番13号
発行年月日	平成27年（2015）３月31日

所収遺跡	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
太田遺跡［ＯＴ08－1・2］	太田東芝町	34°50′20″	135°34′42″	H20.10.2～H20.11.6（第１次） H20.12.8～H21.3.28（第２次）	364㎡ 6,010㎡	土壌改良工事

所収遺跡	種別	主な時代	遺構	遺物	特記
太田遺跡［ＯＴ08－1・2］	集落跡	弥生時代～室町時代	〔弥生時代〕　溝、土坑 〔古墳時代〕　円墳５基 方墳７基 〔古代〕 大溝 石敷遺構 〔平安後期～室町時代〕 耕作溝、柱穴	弥生土器 磨製石斧 埴輪（円筒・巫女・人物顔・鶏・家） 須恵器（甕・高台付坏身） 土師器（壺・甕） 平瓦 青磁椀 緑釉陶器 瓦器 土師皿	第１次調査区では、幅5～6mの南北方向にのびる石敷遺構を確認した。石敷を覆う堆積土内から埴輪片とともに須恵器高台付坏身、土師器盤皿が出土。古代の遺構で、北に300mほどで太田茶臼山古墳南西付近の西国街道に達する。 また、第２次調査区では直径15m程の円墳と一辺10m程の方墳で構成される古墳群を確認した。さらに、古墳群を壊して南北に120m以上のびる幅2～3mの溝を確認した。

太田遺跡発掘調査概報
茨木市文化財資料集　第 61 号
発行日　平成 27 年 3 月 31 日
発　行　茨木市教育委員会
印　刷　株式会社トゥユー